

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	道路景観整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設部 土木課	事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	プロ野球キャンプを活用した観光振興を図るため、横浜DeNAベイスターズがキャンプを行う市立野球場及び海浜公園から国道58号線までの市道及び、沖縄コンベンションセンターから国道58号線までの市道を整備する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	32,920		25,000		80,020
		(b) 予算現額	32,920		25,510		80,020
		(c) 増減額 (b-a)	0		510	0	0
		(d) 繰越額	—			13,502	—
		A. 計 (b+d)	32,920		25,510	13,502	80,020
	B. 執行済額	32,919		11,508	13,497	79,499	
	うち交付金充当額	26,334		9,206	10,794	63,599	
	次年度繰越額	0		13,502	—	—	
	執行率 (%) (B/A)	100.0%		45.1%	100.0%	99.3%	
予算の状況の説明	・真志喜9号歩道改良工事【L=0.38km 47,833,200円】 ・真志喜9号街路樹移植工事【N=38本 8,694,000円】 ・真志喜9号歩道外灯設置工事【N=20基 22,971,600円】を平成27年度で執行						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	主要観光道路(市道)景観整備	目標	(1路線 0.30km)	(1路線 0.27km)	()	()	
		実績	1路線 0.16km	1路線 0.38km			
達成状況説明	H26 【真志喜9号】 歩道改良実施設計業務委託(路線延長L=650m・幅員W=3.5m) H26(繰越) 【真志喜9号】 歩道改良・樹木及び植栽樹撤去、車両乗入れ口改修(歩道部L=160m×2・幅員W=3.5m) H27 【真志喜9号】 歩道改良・植栽移植、外灯設置(歩道部L=380m×2・幅員W=3.5m)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	主要観光道路(市道)景観整備:1路線(歩道等)の約3分の2完了	目標	()	(1路線 0.30km)	(1路線 0.27km)	()	()
		実績		1路線 0.16km	1路線 0.38km		
進捗状況説明	【真志喜9号 L=0.65km】 H26年度は歩道部改良実施設計(0.65km)および歩道部分改良工事(0.16km)を実施した。 H27年度は歩道部分改良工事(0.38km)を実施した。 全体延長の4/5完了						

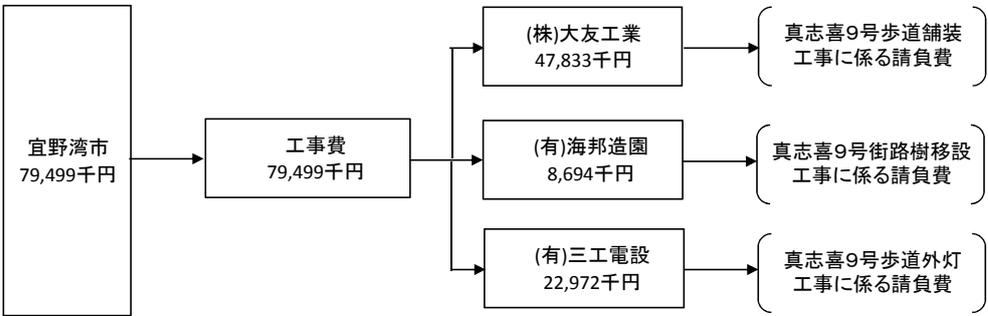
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の対象となる路線は、整備後約20年が経過しており、歩道乗入・植樹樹の再配置や、照明灯の老朽化、また事業目的である観光振興を図る上での景観性の向上などの課題があった。 ・景観性の向上を図るため、縁石等への塗装を実施する場合、歩道舗装(コーラルカラー色)との一体とした配色の検討が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道乗入・植樹樹の再配置について、隣接する地域住民との調整が必要である。

今後の取り組み方針

H33年度を目標に2路線(0.99km)を整備する予定であり、歩道乗入・植栽樹の再配置については、設計段階で隣接地利用状況を考慮して調整を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
79,499	79,499	63,599	15,900	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定については、指名審査委員会で選定承認を受けており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業内容に見合った規模で確保されており、妥当であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的の観点から必要なものと判断しており、適正であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② はごろも祭り・カチャーシー大会運営事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア		
	市民経済部 観光農水課		事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-1	
事業内容	市民意識の高揚と親睦を図りつつ、地域活性化及び商工・観光振興の観点から「はごろも祭り・カチャーシー大会」を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,053	17,053	17,053	17,053	
		(b) 予算現額	17,053	17,053	17,053	17,053	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)		17,053	17,053	17,053	17,053	
	B. 執行済額		17,053	17,053	17,053	17,053	
	うち交付金充当額		13,642	13,642	13,642	13,642	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・当初計画していたとおり、はごろも祭り・カチャーシー大会へ支援を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	はごろも祭りプログラム各イベント数 各イベント数(20イベント)	目標	(23イベント)	(20イベント)	(20イベント)	(20イベント)	
		実績	23イベント	23イベント	23イベント	24イベント	
	カチャーシー大会参加数 子供・団体の部(20チーム×20名) 個人の部(100名)	目標	(個人80名 団体25チーム)	(個人100名 団体22チーム)	(個人100名 団体20チーム)	(子供・団体(20 チーム×20名) 個人100名)	
		実績	個人56名 団体23チーム	個人58名 団体23チーム	個人56名 団体20チーム	子供・団体23チーム 個人49名	
達成状況説明	8月8日・9日に開催したはごろも祭りでは2日間において24のプログラムイベントを実施した。メインイベントである「カチャーシー大会」では、子供・団体23チーム、個人49名の参加者があり、市民の英知と活力を集結し、地域活性化及び観光振興に寄与することができた。 個人の部では事前申込が少なかったため、当日受付を行ったが目標値に届かなかった。子供・団体の部では23チーム・計811名の参加となり目標を達成することができ大盛況で終えることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(H22年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	はごろも祭り・カチャーシー大会来場者数 来場者数:150,000人 (基準値:H22年度 130,000人)	目標	(13万人)	(14万人)	(14.5万人)	(15万人)	()
		実績		14万人	14.5万人	14万人	
	進捗状況説明	・8月8日(土)、9日(日)に開催したはごろも祭りでは、数多くのイベントを実施し多くの来場者で賑わった。 ・来場者数は目標に届かなかった。台風の影響で時折雨に見舞われたことが大きな原因と考えられる。					

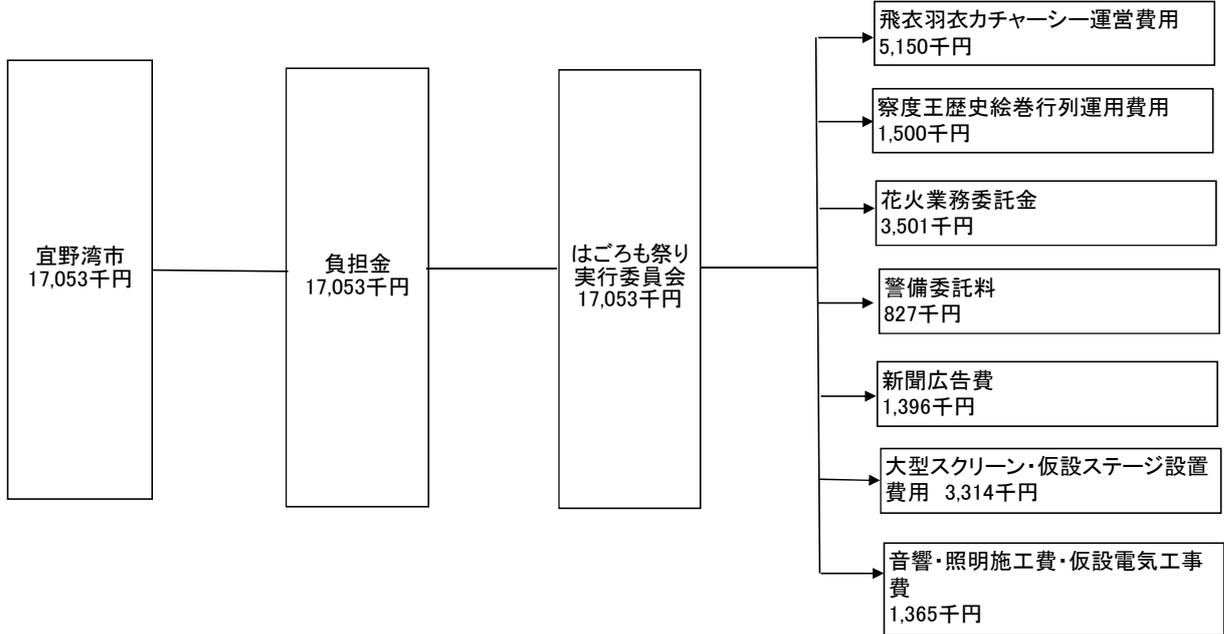
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場不足が解消されていないため、来場者数の減少が懸念される。 ・交通渋滞、違法駐車等について、今後対策を講ずる必要がある。 ・祭り当日の天候によって来場客数が減少する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場不足解消の為、近隣駐車場への協力要請。 ・公共交通機関の利用促進 ・祭りPRの工夫・強化 ・周辺住民へ交通規制に対する周知・徹底が必要である。

今後の取り組み方針

- ・近隣駐車場への協力要請を行い、駐車場不足の改善に取り組む。
- ・警察署と連携し、周辺住民への交通規制に対する周知・徹底を図る。
- ・公共交通機関利用促進のPR強化を行う。
- ・各種関係機関との連携を強化し、来場者数が増加するよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
17,053	17,053	13,642	3,411	0



はごろも祭り実行委員会は、宜野湾はごろも祭りの目的が十分に達成されるように市内各種団体及び関係機関との密接なる連帯のもとに、祭りの円滑なる運営を図ることを目的とする。
(事業)

- ①各種団体、機関等の連絡調整に関すること。
- ②祭りの計画調整に関すること。
- ③祭りの業務及び事業に必要な経費に関すること。
- ④その他祭りの目的達成に必要な事項。

資金の流 れ、費 用・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会方式の運営を行っており、支出先の選定方法は妥当である。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模となっている。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものと判断している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③ 企画展開催事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア
担当部署名	教育部 文化課 市立博物館	事業実施(予定)年度	平成24~33年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	III-1-(1)

事業内容	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。
------	---

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	--

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	4,143	3,645	5,233	4,458	
	(b) 予算現額	3,972	3,101	4,704	2,784	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 171	▲ 544	▲ 529	▲ 1,674	
	(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)	3,972	3,101	4,704	2,784	
	B. 執行済額	3,630	2,784	4,675	2,674	
	うち交付金充当額	2,400	2,227	3,739	2,139	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	91.4%	89.8%	99.4%	96.0%	
	予算の状況の説明	予算の(C)増減額の▲1,674千円は、委託料の契約残等によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
企画展を開催:2回	目標	8回 (市単費分含む)	7回 (市単費分含む)	3回 (交付金対象)	2回 (交付金対象)
	実績	8回 (8回中一括交付金対象は3件)	8回 (8回中一括交付金対象は3件)	3回 (交付金対象)	2回 (交付金対象)
達成状況説明	一括交付金に係る企画展として、沖縄戦・戦後70年企画展「宜野湾 戦後の復興とくらし」、地域との共同企画展「ぎのわんの“字”展～大山編～」の2回を開催した。戦後70年とあって、戦後生まれ世代から戦前と戦後の宜野湾の変貌について等の問合せが目立ち、見学者の関心の高さを感じた。また、ぎのわんの字展では、大山という地域に特化した展示会を地元の協力を得て開催し、新たな地域発見と対外的には地域PRに貢献することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
		企画展の平均入館者数	()	()	()	1,400人/回
					1,832人/回	
	【参考指標】 入館者数(総来館者数と企画展入館者数)	目標	総来館者数16,000人(企画展入館者6,000人)	総来館者数15,000人(企画展入館者6,000人)	総来館者数15,000人(企画展入館者6,000人)	総来館者数15,000人(企画展入館者1,400人)
	実績		総来館者数16,358人(企画展入館者7,016人)	総来館者数14,411人(企画展入館者5,854人)	総来館者数15,461人(企画展入館者6,784人)	

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 26年度から別事業の博物館機能強化への着手と、27年度に課内の係統合もあって全体的に業務量の見直しを図り、前年度よりも企画展の本数を3回から2回とした。 総来館者数は15,461人(H26比:1,050人増)、企画展入館者が6,784人(H26比:960人増)となった。そのうち、交付金に係る企画展については、企画展入館者数の53.9%の3,663人が来館し、1回の企画展平均来館者は、1,832人であった。28年度は、博物館整備工事の大詰めを迎えることから企画展の回数と規模を押さえての開催を検討したい。
--------	--

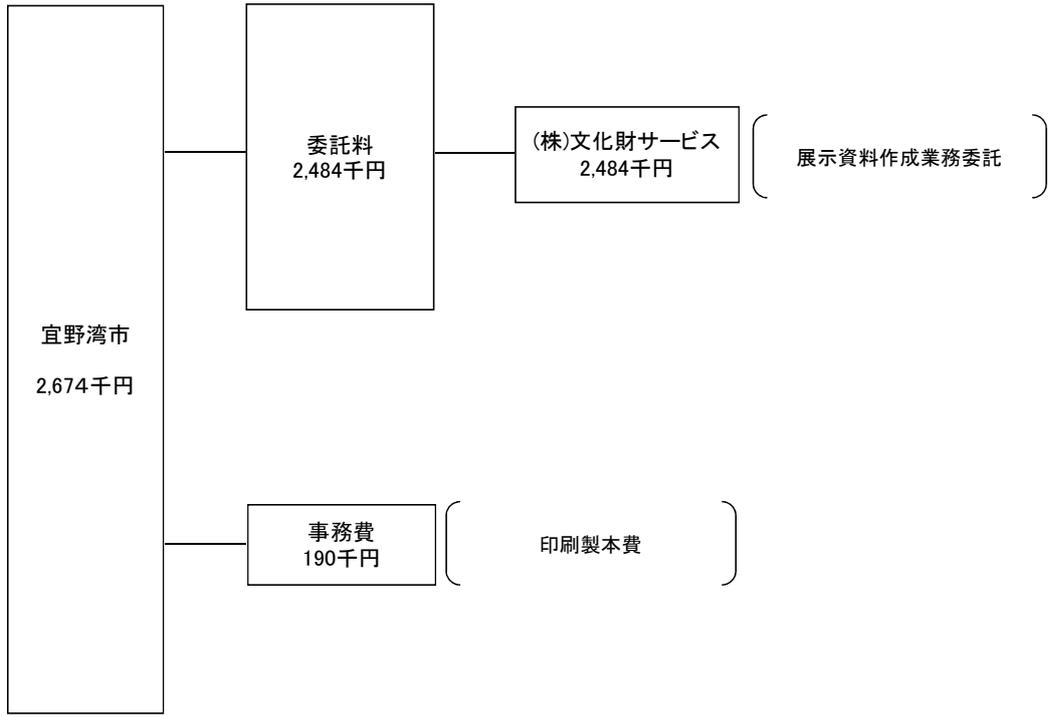
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 入館者状況の把握を目的として芳名録に宜野湾市内外、他府県からの観光等、出身地欄を設けて可能な限り、その把握に努める。 新たな見学者層の開拓を目的に市内のリゾートホテルや商業施設等に、近隣市町村の学校や施設等も加えるなど、広報範囲を広げる。 企画展紹介についてTV放映の結果、視聴者の来館があり、継続してマスコミの活用、博物館HPでの周知を図る。 展示内容は、沖縄戦・戦後70年の節目もあり、沖縄戦、戦後復興に焦点をあてたこと。また宜野湾市内の一地域にスポットをあてた企画展を行い、見学者の地域発見、PRに寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して夏季と秋冬期の時期や対象に見合った展示テーマの設定と手法を検討する。 マスコミ活用を図るものの、取材可否はマスコミ判断によるため、取材の有無によって入館状況が左右されるので、継続的なマスコミ活用手段を検討する。

今後の取り組み方針

・市民や観光客に宜野湾市の歴史・文化への理解を深めてもらうことを目的に企画展を継続開催し、入館者増とリピーターの確保を図る。
 ・28年度は別事業で取組む常設展示室のリニューアルが大詰めを迎えるため、一時休止をするが、29年度からはリニューアルした常設展示を核に企画展と連動した活動計画を検討し、見学者に幅広く学べる場を提供する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,674	2,674	2,139	535	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者は、①県内でも同種類・同規模の業務を確実に履行した実績があること、②沖縄・宜野湾の歴史・文化情報に精通していることを重視して選定しており、妥当であると考えられる。その結果、円滑に事業進行ができた。</p> <p>○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。</p> <p>○使途については、企画展終了後も作成資料が歴史・文化教育の学習教材用として、また観光PRにも活用ができ、目的や額は適正だと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

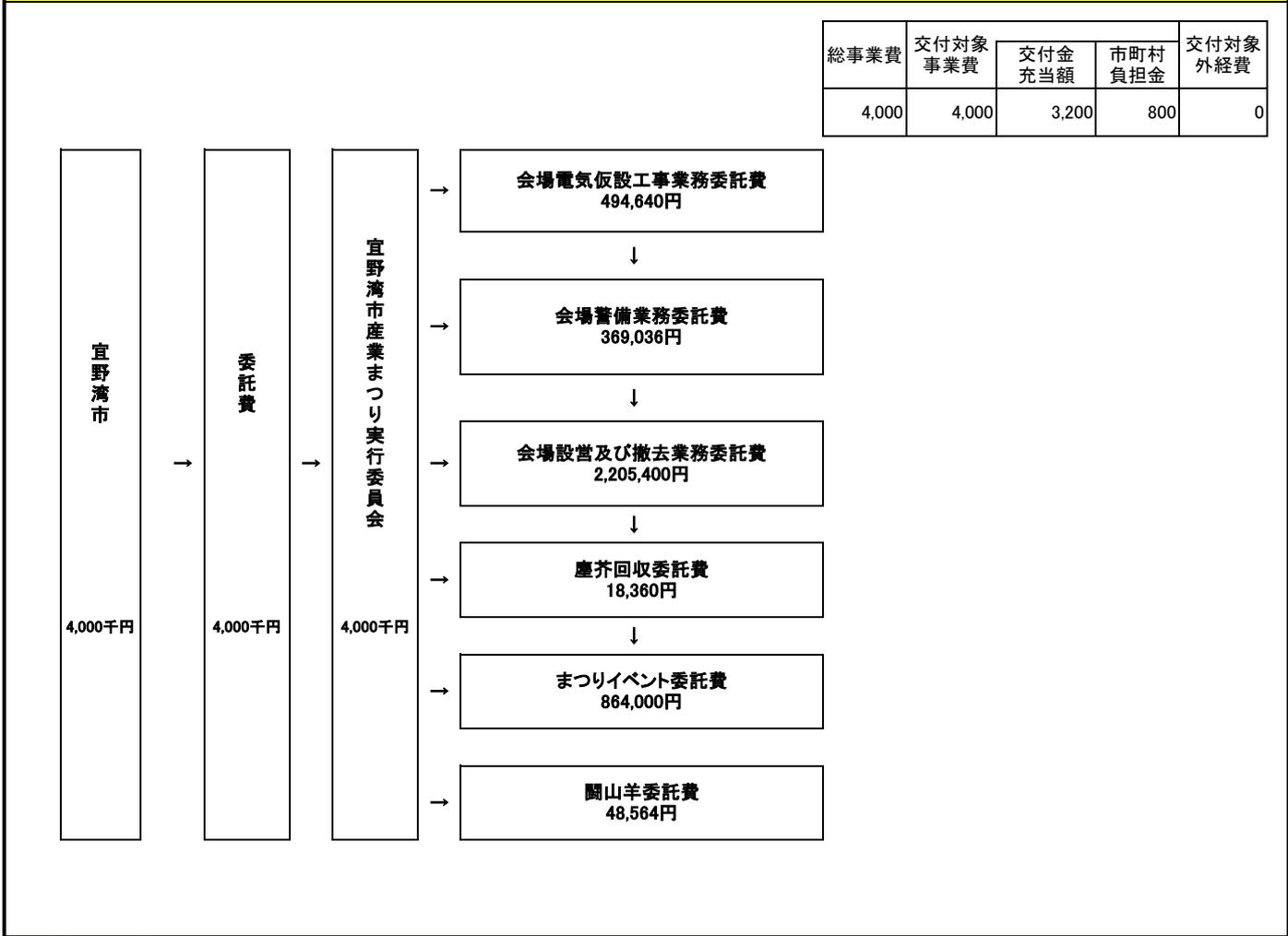
市町村名		宜野湾市											
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	1-④		宜野湾市産業まつり		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-オ							
	担当部署名	市民経済部観光農水課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)					
事業内容	市の特産品のPRや産業振興及び観光振興を図るため、宜野湾市産業まつりの開催を支援する。												
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()												
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		(a)当初予算額	4,000		4,000		4,000		4,000				
	(b)予算現額	4,000		4,000		4,000		4,000					
	(c)増減額(b-a)	0		0		0		0					
	(d)繰越額	0		0		0		0					
	A.計(b+d)	4,000		4,000		4,000		4,000					
	B.執行済額	4,000		4,000		4,000		4,000					
	うち交付金充当額	3,200		3,200		3,200		3,200					
	次年度繰越額	0		0		0		0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%					
予算の状況の説明		事業計画通りに予算執行がなされた。											
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況										
			24年度	25年度	26年度	27年度							
	宜野湾市産業まつりの開催		目標	(産業まつり開催)	(産業まつり開催)	(産業まつり開催)	(産業まつり開催)						
		実績	産業まつり開催	産業まつり開催	産業まつり開催	産業まつり開催							
達成状況説明		農業協同組合・漁業協同組合・商工会の協力の下、11/28・29の2日間「宜野湾市産業まつり」を開催することができた。農作物生産者より1月開催が望ましい旨のご意見はあるものの、水産業、商工会との協議、会場の確保等に鑑み、11月末日開催となった。台風接近が心配されたが、これまで台風等荒天による同まつりの中止は無い。											
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)						
	宜野湾市産業まつりの開催(来場者数:28,000人)		目標	(10,000)	(10,000)	(25,000)	(28,000)	(30,000)					
			実績		25,000	25,000	26,000						
進捗状況説明		開催日を11月へ戻し、チラシ・ポスター・ノボリ、またFMラジオ局・HPIによる周知、広報に努めた結果、微増ではあるが来場者の伸びがみられた。会場内においては農林水産物・商工業製品等の品評会及び展示即売会等実施。出展部門では51ブースが出展。魚つかみ取り、市特産品の田いも(水芋)の試食、新たに乳搾り体験コーナーなど、多彩なイベントを設けた結果といえる。また、会場内において事業者間の交流や商談等が行われるなど、市内関連産業とのマッチングの場となる。目標値未達成の主な要因として、子育て世代への周知不足、駐車場の不足が挙げられる。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ■宜野湾市産業まつりは、普天間基地内野球場を会場として利用しており、使用不可となった場合の代替措置の検討が必要である。 ■子育て世代への周知、駐車場不足解消の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市内公共施設(海浜公園)等の利用状況・近隣市町村の産業まつり運営手法等情報収集し、産業まつり運営に活かしていきたい。 ■学校、保育所等を通じた周知が必要。 ■宜野湾市民会館駐車場の利用について検討。

今後の取り組み方針

■産業まつり会場移転の検討。■市民参加型イベントの企画。■会場レイアウト検討。市特産品のPR方法の検討。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会方式の運営を行っており、支出先の選定は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、妥当である。 (今後、会場・イベント内容等の変更がなされた場合要検討)。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途のについて、精算段階で検査を実施しており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤ 文化財説明板・標識設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
	担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	H24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光振興及び文化教育に資するため、市指定・登録文化財の所在地に標識や説明板を設置するとともに、自治会事務所等に「地域文化財案内板(ふるさと案内板)」を設置する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,474	1,552	2,219	1,778		
		(b) 予算現額	1,474	1,499	1,664	1,778		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 53	▲ 555	0		
		(d) 繰越額	—					
		A. 計(b+d)	1,474	1,499	1,664	1,778		
	B. 執行済額		939	1,373	1,571	702		
	うち交付金充当額		750	1,098	1,257	561		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		63.7%	91.6%	94.4%	39.5%		
予算の状況の説明		・当初予定していた文化財説明板設置3件、標識設置1件のうち、文化財説明板2件を設置した。文化財説明板1件及び標識1件の設置が出来なかった為に、執行率が低くなっている。実施分については、活動目標・成果目標の達成状況から鑑みて適正に行われていると考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	文化財標識・説明板設置	目標	(7件)	(6件)	(4件)	(4件)		
		実績	7件	5件	4件	2件		
達成状況説明	文化財説明板・標識設置の目標を4件とし、その内訳は、文化財説明板設置を3件、標識設置が1件であった。文化財説明板設置目標数3件のうち、返還された西普天間住宅地区に所在する湧泉群及び国指定有形文化財「喜友名泉」を紹介した「喜友名七泉」の説明板、市登録無形文化財「宇宜野湾の年中祭祀」の説明板の計2件を作成し設置した。市指定史跡「伊佐『たけたう原』銘の印部土手」に予定をしていた文化財説明板設置1件、標識設置1件は地権者との調整が難航した為できなかった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)	
			目標	()	(環境整備)	()	()	()
	文化財標識・説明板設置を行い、今後の展開につながる環境が整う。		実績		環境整備実施完了			
	進捗状況説明	説明板・標識設置については、2件の整備が行え、これと並行して「宜野湾市文化財ガイド」16名を養成した。当ガイド団体とも協働して、分かりやすい説明・標識設置に取り組むことで、文化財等の観光資源を活かす環境整備が整えられてきている。引き続き、市登録・指定文化財の所在地に必要な標識や説明板を設置するとともに、自治会事務所等に「地域文化財案内板(ふるさと案内板)」を実施していく、継続して環境整備に取り組んでいく。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 指定・登録文化財の保護・活用が図れるよう、市民の方々への啓発の充実が望まれる。 指定・登録文化財等の場所の問い合わせが寄せられている。 訪れた文化財の詳細な情報提供が求められている。 文化財周辺の開発(宅地建設等)があり、標識等の設置ができない箇所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史と文化を今に伝える文化財の保護・利活用を図るために、市内に所在する文化財の調査を推進し、その成果を文化財教室(市主催の講座)、市報等で周知し、文化財の新規登録、指定に努める。また、文化財の場所、情報が市民にわかりやすく、身近に感じられるよう、作成・設置する必要がある。 対象となる文化財・地域の現状を踏まえて、標識を作成・設置する必要がある。 さらなる工夫を行い、詳細な情報を提供できるようにする。 文化財標識等設置を関係者と調整ないしは開発終了後に行う。 観光施設等に、リーフレット等を配布し、観光客にも「地域巡り」を体験、発見できるようにする。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 文化財の所在する各区自治会・所有者・地域住民・来訪者・文化財ガイド等の意見・要望等を十分に反映させて実施する。 現地の説明板の情報提供では、情報量の限界もあることから、市HPなどインターネットなどを利用して詳細な文化財情報を提供できるようにする。 		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	702	702	561	141	0
<pre> graph LR A[宜野湾市 702千円] --> B[委託料 702千円] B --> C[株式会社 沖縄環境科学研究所 702千円] subgraph D [] C end style D stroke-dasharray: 5 5 </pre>					

資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により、市内業者より実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○4件の設置目標のうち、2件の設置にとどまったが、目標通りの設置を行った場合の予算規模については、適正であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

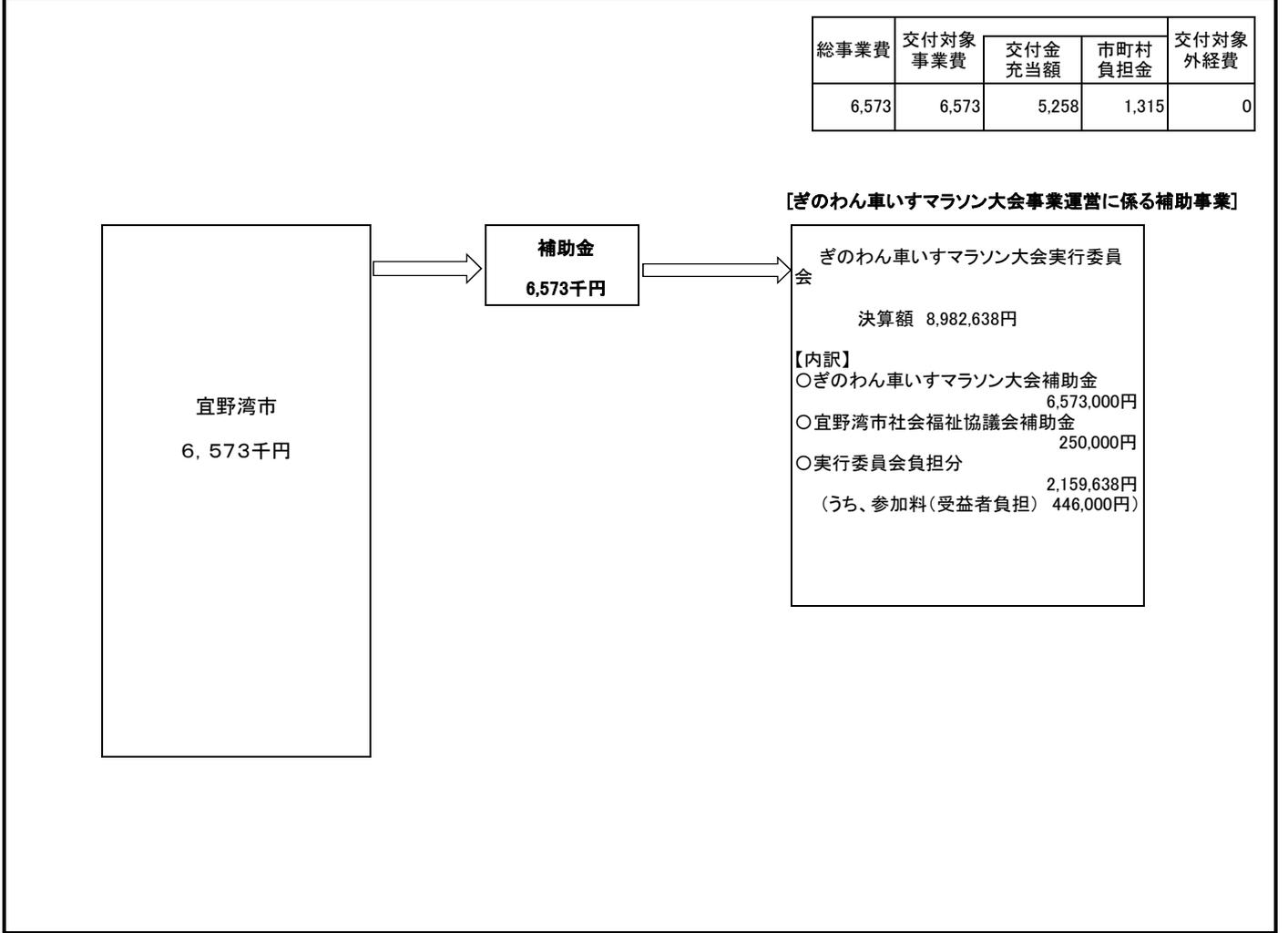
市町村名	宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ ぎのわん車いすマラソン大会補助事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部署名	福祉推進部 障がい福祉課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	障がい者スポーツの振興及び観光振興を図るため、本市の海浜公園及びその周辺で開催されるぎのわん車いすマラソン大会に対して支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,601	5,471	6,573		
		(b) 予算現額	4,601	5,471	6,573		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		4,601	5,471	6,573		
	B. 執行済額		4,601	5,471	6,573		
	うち交付金充当額		3,680	4,376	5,258		
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		事業計画通り、ぎのわん車いすマラソン大会実行委員会へ補助を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ぎのわん車いすマラソン大会に対して、補助を行う。		目標 (補助金4,601千円)	(補助金5,471千円)	(補助金6,573千円)	()	
			実績 補助金4,601千円	補助金5,471千円	補助金6,573千円		
達成状況説明	事業計画通り、ぎのわん車いすマラソン大会実行委員会へ補助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (平成24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (平成33年度)
	大会参加者(実走者)目標数 全体250名(内県外参加者50名)		目標 (大会参加者全体221人 うち県外参加者34人)	(大会参加者全体220人 うち県外参加者30人)	(大会参加者全体220人 うち県外参加者30人)	(大会参加者全体250人 うち県外参加者50人)	(大会参加者全体260人 うち県外参加者50人)
			実績	大会参加者全体249人 うち県外参加者37人	大会参加者全体266人 うち県外参加者42人	大会参加者全体256人 うち県外参加者35人	
	進捗状況説明	H27年度は大会参加者の目標について全体250人に対して実績は256人となっており、目標を達成することができたが、県外参加者については、目標の50人に対して実績が35人と目標が達成できなかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 本大会でハーフマラソンのコースとして使用している国道については、国際的なイベントが開催される沖縄コンベンションセンターの入り口に面した国道であり、また、周辺が商業地域として発展してきたことにより交通量が増え、交通整理が年々難しくなっている。 選手や来場者が感じている、本大会の良い点・改善が必要な点を把握することができていない。本大会では、成果目標(県外参加者)を達成できなかったため、県外参加者が減少した理由を検証するためにも、選手や来場者の意見を調査する必要がある。今回、アンケート調査を実施する調整を行ったが、ボランティアが確保できず、実施することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本大会でハーフマラソンのコースとして使用している道路は年々交通量が増えていることや、商業施設が多いことから、事前周知等の強化を図っているが交通規制による渋滞等の問題が生じている。 しかし、現在コースとしている道路は見通しが良く、選手が走りやすい道路である。また、沿道が広く、毎年、幼児から高齢者まで多くの市民が訪れて沿道から選手へ声援を送っており、障がいへの理解を深める良い機会となっている。このような点から、同地区において開催を継続するため、交通整理のあり方等について改善が必要である。 本大会は車いすマラソンであるため、急激な選手の増加は見込めないが、今後、選手および来場者を増やしたり、参加選手の満足度を高めるため、アンケート調査等を行い、その意見を大会に反映させる必要がある。

今後の取り組み方針

・ハーフマラソンのコースについて、交通渋滞等の問題が年々大きくなっているため、本大会で交通整理が難しかったポイントを確認し、交通整理の強化だけでなく同地区でコースの区間を変更するなど大幅な見直しを行い、安全対策を図っていく。
 また、警察署と連携し、周辺住民及び周辺施設への交通規制に対する周知、徹底を図る。
 ・選手・来場者のニーズを把握し大会を充実させるため、アンケート等の調査の手法について再検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○補助の支出先として、実行委員会は宜野湾市社会福祉協議会に事務局を置いており、本大会の事務局として適正であった。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○大会実施要綱に基づき経費を負担しているため、受益者との負担関係は妥当であったと考えている。 ○費目・使途についても支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦ 琉球海炎祭支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-2-ア		
	市民経済部 観光農水課		事業実施(予定)年度	平成25～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-1	
事業内容	日本で一番早い夏の大花火をキャッチフレーズにしたイベントである。日本の夏の風物詩である花火と沖縄音楽・文化の融合によるオリジナリティに溢れた沖縄最大の一大イベントであり、本市の観光振興に寄与しているため、当該イベントを支援し、観光・コンベンション機能の充実を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	2,000	2,000		
		(b) 予算現額	3,000	2,000	2,000		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		3,000	2,000	2,000		
	B. 執行済額		3,000	2,000	2,000		
	うち交付金充当額		2,400	1,600	1,600		
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・当初計画していたとおり、琉球海炎祭実行委員会へ支援を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	琉球海炎祭実行委員会への支援		目標 (琉球海炎祭実行委員会への補助)	(琉球海炎祭実行委員会への補助)	(琉球海炎祭実行委員会への支援)	()	
	実績		琉球海炎祭実行委員会への補助を行った	琉球海炎祭実行委員会への補助を行った	琉球海炎祭実行委員会への支援を行った		
達成状況説明	当初の計画通り、琉球海炎祭実行委員会へ支援を行った。 4月の開催ではあるが、日本で一番早い夏の大花火をキャッチフレーズにしたイベントとして定着してきている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	琉球海炎祭有料エリア来場客数:13,000人 (内観光客5,100人)		目標 ()	(13,000人 (5,100人))	()	()	()
	実績			11,386人 (4,495)			
	進捗状況説明	4月11日に宜野湾トロピカルビーチで開催した琉球海炎祭では、花火と音楽・文化の融合によるオリジナリティ溢れた花火イリュージョンを実施し多くの来場者で賑わった。 来場者数は目標に届かなかった。天候不良が大きな原因と考えられる。。					

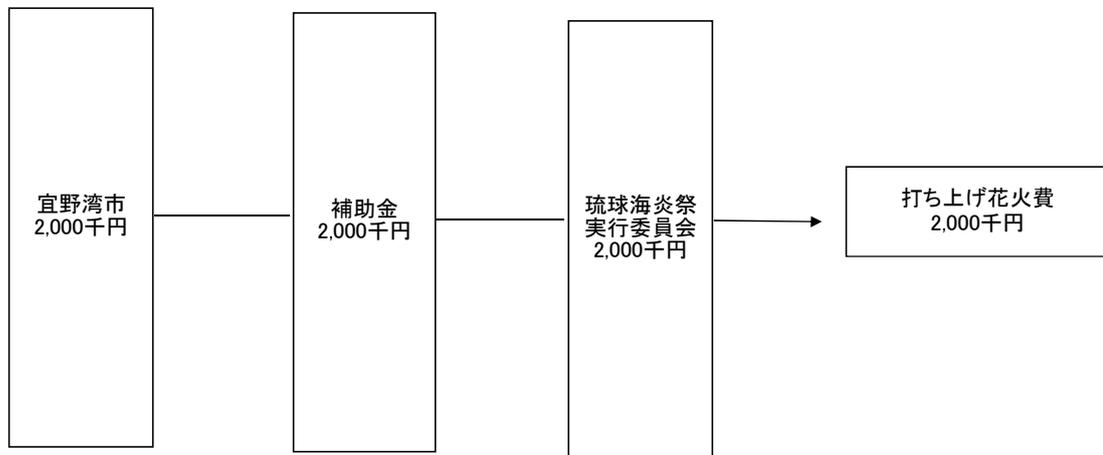
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場不足が解消されていないため、来場者数の減少が懸念される。 ・交通渋滞、違法駐車等について、今後対策を講ずる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市、琉球海炎祭実行委員会及び施設管理者と協議を行い、イベント来場者に対し、更なる安全対策を講じる。 ・県内外から更なる誘客を図る。

今後の取り組み方針

・琉球海炎祭の目玉である「デザイン花火」に対して、今後も魅力のある企画と技術を駆使したエンターテインメントを目指していけるよう支援していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,000	2,000	1,600	400	0



受益者負担額等
 協賛金: 37,939千円
 チケット販売: 14,344千円
 特別席販売: 1,104千円
 出店: 1,827千円
 グッズ販売: 159千円
 その他: 384千円

琉球海炎祭実行委員会規則
(事業)
 ①琉球海炎祭の企画及び運営に関すること。
 ②チャリティーイベント「とどげよう模合のココロ」プロジェクトの企画及び運営に関すること。
 ③前項に掲げるもののほか、琉球海炎祭の開催に必要な事項
(経費)
 実行委員会の経費は、企業協賛金、有料前売券、出店料、そ

資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 流 れ 、 費 目 ・ 使 途 の 流 れ 、 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会方式により執行がなされており、支出先や事業規模、使途等は適正と判断している。 ○実行委員会規則に基づき経費を負担しているため、受益者との負担関係は妥当であったと考えている。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-2-ア	
担当部署名	市民経済部 観光農水課	事業実施(予定)年度	平成25～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-1	
事業内容	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信し、観光・経済に大きな効果が期待できる。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,323	1,323	1,715		
		(b) 予算現額	1,323	1,323	1,715		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		1,323	1,323	1,715		
	B. 執行済額		1,323	1,323	1,715		
	うち交付金充当額		1,058	158	1,372		
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・当初計画していたとおり、横浜DeNAベイスターズ宜野湾友の会へ支援を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	植樹する花の苗	目標	(12,000鉢)	(15,000鉢)	(10,000鉢)	()	
		実績	22,000鉢 (うち15,700鉢の寄贈)	10,000鉢 (うち、3,000鉢の寄贈)	13,000鉢 (うち、3,000鉢の寄贈)		
達成状況説明	・横浜DeNAベイスターズ宜野湾春季キャンプに伴い球団関係者や監督・選手並びに来場者を気持ちよく迎えるため、野球場を中心とした海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信することを目的に、宜野湾市はごろも緑化会の協力の下実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(H24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	プロ野球キャンプ見学者数	目標	(22,300人)	(25,000人)	(28,000人)	(28,000人)	()
		実績		25,100人	25,694人	26,700人	
進捗状況説明	・横浜DeNAベイスターズ花いっぱい運動開催当日は、天候にも恵まれ沖縄県緑化推進委員会より花苗3,000鉢を含め13,000鉢の植栽を行った。 ・目標人数には届かなかったが、キャンプ期間中における来場者数の増加に繋がった。						

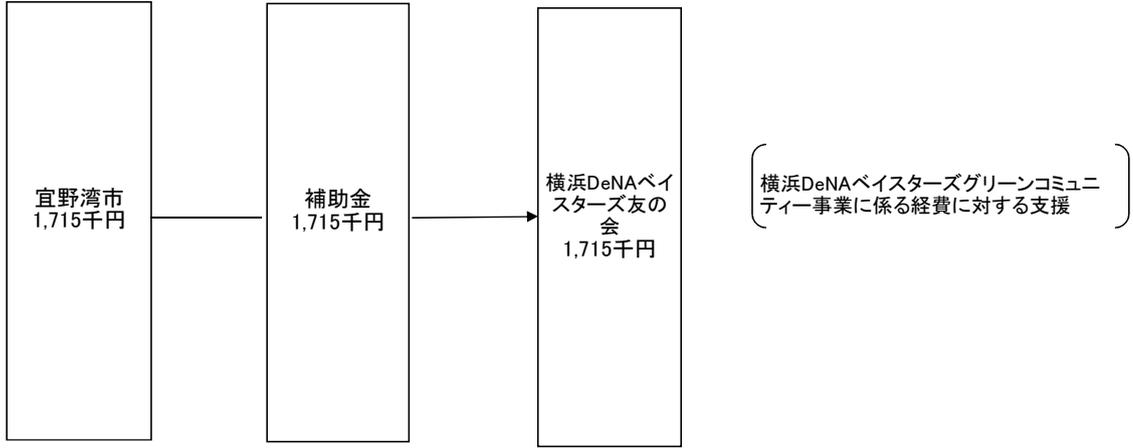
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 花苗の寄贈がなかった場合を含め、植栽の場所等、今後事業内容を検討する必要がある。 認知度向上に向けたPR向上及び市内関係団体との協力。 	<ul style="list-style-type: none"> 花苗の寄贈が減少した場合を想定し、効果的に事業を推進するため事業内容を検討する必要がある。 各種関係団体との連携を強化し、事前周知等PRの強化が必要である。

今後の取り組み方針

・キャンプ期間中における来場者数の増加に向け、各種関係団体との連携を密にしPRの強化(ホームページ・チラシ等)を行う。
 ・効果的に事業を推進するため事業規模等を検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,715	1,715	1,372	343	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助の支出先として、横浜DeNAベイスターズ友の会は、現在もキャンプの受け入れを行っている団体であり、補助の支出先として妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○本市補助金交付規則に基づき補助額を決定しており、受益者との負担関係は妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨ トロピカルビーチ賑わい創出事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-2-ア		
担当部署名	市民経済部 観光農水課	事業実施(予定)年度	平成26～平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-1		
事業内容	本市の観光資源であるトロピカルビーチでミュージックイベント等を開催することにより、市民の憩いの場や観光客の賑わいを創出し、アフターコンベンションの新たな観光スポットとして定着を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,486	6,600			
		(b) 予算現額	4,484	6,600			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2	0			
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		4,484	6,600			
	B. 執行済額		4,480	6,600			
	うち交付金充当額		3,584	5,280			
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	100.0%			
予算の状況の説明 ・当初計画していたとおり、事業を執行することができた。							
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	イベントの開催	目標	(イベントの開催)	(イベントの開催)	()	()	
		実績	イベントを開催した	イベントを開催した			
達成状況説明	・9月26日、27日に予定していたミュージックイベント「トロパ2015」は、台風の影響の為1週間遅れの10月3日、4日の開催となったが、開催当日は、天候にも恵まれ市民の憩いの場や観光客の賑わいを創出することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (H26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	イベント来場者数	目標	(4,703人)	(4,800人)	()	()	()
		実績		9,691人			
	進捗状況説明	・4,800人を目標としていた来場者数が9,691人と大幅に上回った。 ・アンケート調査については、183件の回答を集計した結果、「ステージライブ・ショーについては、「とても楽しかった、楽しかった」が42%(未回答52%)、「また来たいか?」の項目については「また来たい」が82%(未回答10%)であった。					

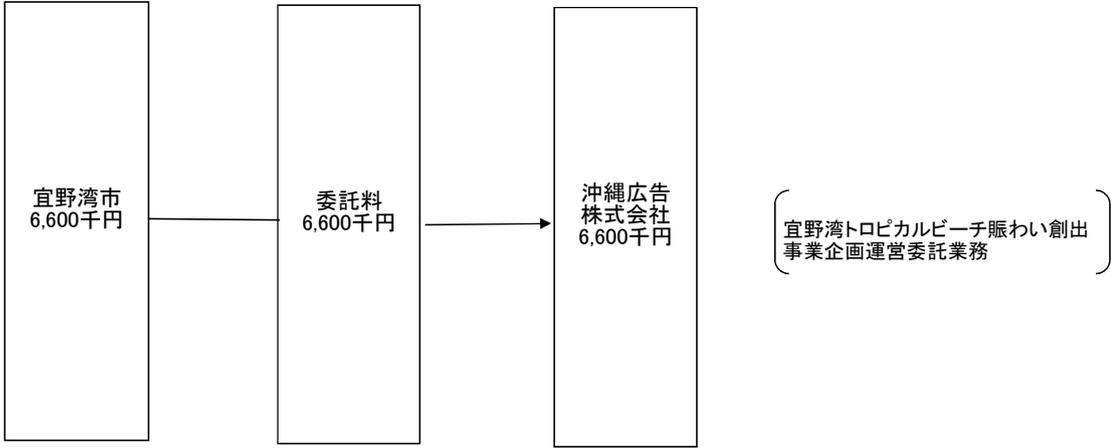
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数に対して、アンケート回答数が少なかった。また、アンケートの項目によっては未回答が多く見られた。 来沖中の観光客に対するの周知方法が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの回答数を増やすため、アンケートの回収方法を検討する必要がある。また、項目によっては未回答が多く見られたため、アンケートの内容についても工夫が必要である。 観光客等へイベントの更なる周知を図るため、メディアを活用した広報展開を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- アンケートの回答数を増やすため、アンケートの内容や回収方法を検討する。
- 委託事業者及び各種関係団体との連携の強化を図ることで、イベント内容の更なる充実を図る。
- イベント来場者数の更なる増加を図るため、メディアを活用した広報展開を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
6,600	6,600	5,280	1,320	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者との契約は、本事業の委託内容がイベント等の企画力、創造性が求められる業務であることから、価格のみによる競争入札に適しておらず、価格以外の要素を含め総合的に判断するため、企画提案公募型プロポーザル方式にて選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩	エンタテインメント産業支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-2-ア	
担当部署名	市民経済部 観光農水課	事業実施(予定)年度	平成26～平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-1	
事業内容	エンタテインメントを沖縄の成長産業として育成していく試金石として、次世代を担う若年層が世界のエンタテインメントの最前線から直接学ぶ機会を提供するとともに、宜野湾市の新たなイメージを創出するオープンスクールイベント開催を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
		(b) 予算現額	10,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	10,000				
	B. 執行済額		9,454				
	うち交付金充当額		7,562				
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		94.5%				
予算の状況の説明		・ほぼ当初の計画通り支援を行ったが、一部事務費等を対象外としたため94.5%の執行率となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	オープンスクールイベントの開催	目標	オープンスクールイベントの開催	()	()	()	()
		実績	オープンスクールイベントを開催した				
達成状況説明	・11月21日、22日に「仲間とともにステージに立ち、人を楽しませる喜びを体験する」をテーマに、本格的なショーを制作し披露するエンタテインメント体験型オープンスクール「ぎのわんオープンスクール2015」を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	オープンスクールイベント来場者数	目標	()	(700)	()	()	()
		実績		453			
	進捗状況説明	・オープンスクールイベント来場者数の目標を700名としていたが、5年後の沖縄でのエンタテインメントスクールの世界を想定し、参加者を未来のエンタテイナーとなる小中学生に限定したため、ショー観覧人数を含め453人と目標に届かなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 最終撤退時の立ち合い確認等に不備があり、借用した備品が元の場所へ返却されていなかった等、現状復帰の体制が取れなかった。 学校行事、部活動等と重なり中学生の参加が少なかった。 開催当日、体育館等からの音声が近隣に漏れ、会場となった学校側へ苦情があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 備品の移動や借用については、実施計画書一覧と見合わせ、最終立ち合いを必ず行う等、対策が必要である。 中学生の参加を増やすため、開催時期を検討する必要がある。 音量については、体育館の近隣住宅側の窓を閉め切ることや、イベント開催の周知を行う必要がある。

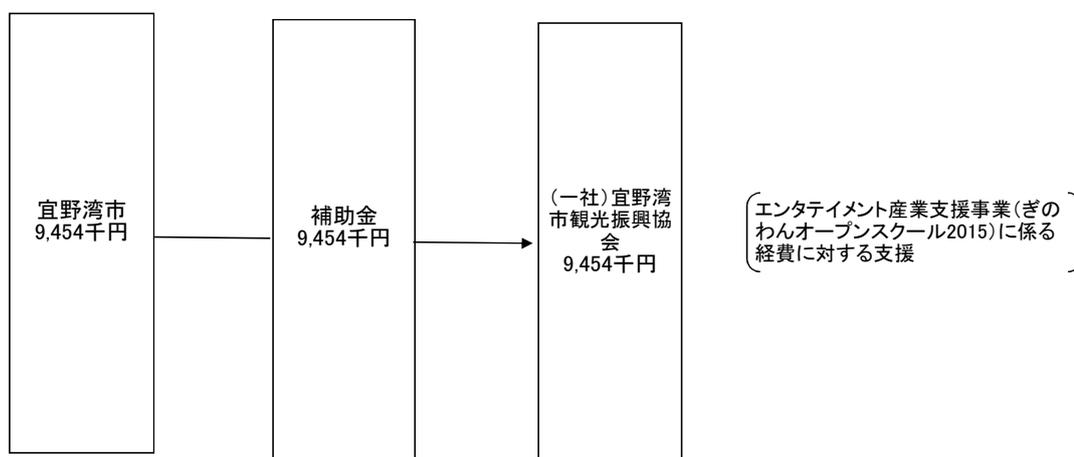
今後の取り組み方針

- 備品の移動や借用については必ず担当者を通す事を徹底し、最終立ち合いを必ず行う。
- 中学生の参加者を増やすため、開催時期の検討を行う。
- 会場である体育館の近隣住宅側の窓を閉め切るなど近隣住宅への配慮や、事前にイベント開催の周知・徹底を行う。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,454	9,454	7,562	1,892	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先は、(一社)宜野湾市観光協会であり、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○本市補助金交付規則に基づき補助額を決定しており、受益者との負担関係は妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 博物館機能強化事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
	担当部署名	教育部 文化課 市立博物館		事業実施(予定)年度		平成26年~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容		観光振興及び生涯学習に資することを目的に、文化発信拠点である市立博物館の案内板充実など機能強化を実施する。					
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		(a) 当初予算額	4,724	6,437			
	(b) 予算現額	4,724	6,437				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0				
	(d) 繰越額	0	0				
	A. 計 (b+d)	4,724	6,437				
	B. 執行済額	3,447	6,383				
	うち交付金充当額	2,758	5,106				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率 (%) (B/A)	73.0%	99.2%				
予算の状況の説明		・当初の計画どおりに事業執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	常設展示室整備実施設計の実施		目標 (常設展示室整備基本計画策定)	(常設展示室整備(実施設計))	()	()	
			実績 (常設展示室整備基本計画策定)	(常設展示室整備(実施設計))			
達成状況説明		・市立博物館内、常設展示室整備の実施設計を執り行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	常設展示室整備実施設計の策定を行うことで、展示工事に向けての準備が整う。		目標 ()	(案内板設置4枚 常設展示室整備基本計画策定完了)	(常設展示室整備(実施設計))	()	()
			実績	案内板4枚設置完了 常設展示室整備基本計画策定完了	常設展示室整備実施設計完了		
	【参考指標】 ・入館者数(総来館者数)		目標 ()	(総来館者数 15,000人)	(総来館者数 15,000人)	()	()
			実績	総来館者数 14,411人	総来館者数 15,461人		
	進捗状況説明		・常設展示室整備は、27年度に実施設計を終え、28年度に展示工事を行う。				

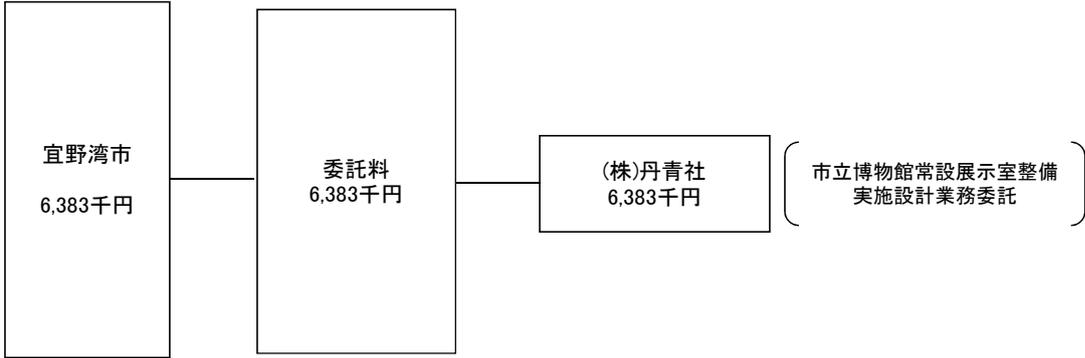
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 市立博物館は開館16年が経過し、館内設備及び展示物に老朽化・故障がみられ、それが入館者状況にも影響を及ぼしている。また、展示物もマンネリ化し、学問的見地からも新情報の追加、学説変更の必要性から展示室含め、館内外整備に着手した。 常設展示室整備は実施設計をふまえ、28年度に展示工事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施設計を終え、展示工事にむけて、展示物の撤去と実質の工事期間の計画、臨時休館に伴う利用者への告知等、工事に係る取り組むべき内容が確認できた。また、新規オープン後の常設展示室をメインとした新たな教育普及活動の計画、立案等、29年度以降の課題も把握できた。

今後の取り組み方針

・常設展示室整備を推進し、28年度展示工事、29年度の新規オープンを目標とする。工事期間は、これまでの個人、団体の利用者のためにも、企画展示室に仮設展示を行い、可能なかぎり対応できる環境を整える。
 ・新規オープンに合わせた企画展開催の計画と、リニューアルした常設展示室を核とした企画展、講座等の普及活動計画を検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,383	6,383	5,106	1,277	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、専門的、独創的な見地が必要とされプロポーザル方式を用いて業者選定し、妥当であると考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・用途は事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑫		プロ野球キャンプ野球場施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	建設部施設管理課		事業実施(予定)年度	平成24~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	宜野湾市内外に周知されたプロ野球チームのキャンプ地である市立野球場において、キャンプ受入体制を確保するため、市立野球場の施設整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	95,435	44,550		14,881	
		(b) 予算現額	95,435	44,550		17,630	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0		2,749	
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	95,435	44,550		17,630	
	B. 執行済額		88,785	42,298		17,630	
	うち交付金充当額		71,000	33,838		14,103	
	次年度繰越額		0	0		0	
	執行率 (%) (B/A)		93.0%	94.9%		100%	
予算の状況の説明		発注時期に合わせて単価入替えによる再積算をしたところ、人件費の高騰などによる予算不足が生じたため、他事業からの流用により不足分を確保した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	市立野球場のラバーフェンスの改修		目標 (芝張替・備品購入)	(野球場スタンドベンチ等改修)	()	(ラバーフェンス改修)	
			実績 芝張替・グラウンド整備機器購入	野球場スタンドベンチ等改修		ラバーフェンス改修	
達成状況説明		破れ等によるクッション材の露出が見られたラバーフェンスを改修し、プロ野球選手等利用者にとって安心・安全に試合や練習に臨める環境を確保したうえでプロ野球キャンプを迎えることができた。改修したフェンスの一部については、これまでシート状のラバーでクッション材を包みリベットで固定するタイプであったものから、クッション材に直接スプレー状のラバーを吹き付けるタイプとした。このことで、リベットへのひっかけによる怪我防止や、破れ等損傷時の補修が容易になるなどの改善が図られた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
	市立野球場のラバーフェンスの改修完了		目標 (芝張替・備品購入完了)	(野球場スタンドベンチ等)改修完了	()	(ラバーフェンス改修)完了	()
			実績	野球場スタンドベンチ等改修完了		ラバーフェンス改修完了	
	【参考指標】		目標 (22,300)	()	()	()	(28,000)
	プロ野球キャンプ見学者数		実績				
進捗状況説明		年次的に市立野球場の整備を実施してきた。これによって利用するプロ野球選手やそれを観に来る観光客・ファンにとり、良好な環境整備が図られた。プロの球団がキャンプを実施する施設としても、観光施設としてもリニューアルが図られるものとする。					

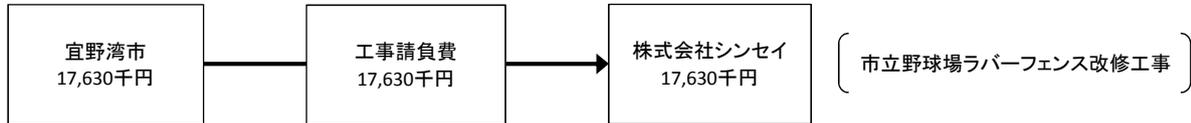
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	他球団の県内キャンプ野球場が改修改築などするなかで、宜野湾市立野球場においてもプロ水準の施設を目指し、毎年の活動目標・成果目標を達成し、キャンプの誘致を継続して実施できている。 訪れる客数については、球団そのものや在籍選手の人気・成績に左右される部分が多分にあるが、微増ではあるが、毎年概ね増加傾向にある。	市立野球場のほか、周辺のキャンプ関連施設についても整備し、球場だけではなく周辺施設も含めたキャンプ地全体をアピールし、県内外からの集客を図る必要がある。

今後の取り組み方針

市立野球場の段階整備として、今後内野スタンド棟の外壁の改修を実施し、利用環境の改善に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
17,630	17,630	14,103	3,527	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は、指名競争入札で決定しており、指名業者の選定については、市内業者の中から実績、経験等を勘案したうえで選定しており妥当であったと考えている。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○費目、用途については、工事完成検査のなかで工事目的物が検査され、事業目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	スクールカウンセラー活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	スクールカウンセラーを市内4小学校に定期的に派遣し、学級担任、児童生徒、保護者との相談(不登校・いじめ・非行・発達に関する問題等)を行い、教育相談の充実を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,640	2,640	2,640	2,640	
		(b) 予算現額	2,640	2,640	2,640	2,640	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		2,640	2,640	2,640	2,640	
	B. 執行済額		1,848	2,288	2,332	2,222	
	うち交付金充当額		1,200	1,830	1,865	1,777	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		70.0%	86.7%	88.3%	84.2%	
予算の状況の説明		平成27年度は、平成28年3月分を市の単独経費で実施したため、執行率が84.2%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・スクールカウンセラー配置		目標 (2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
実績		2名	2名	2名	2名		
達成状況説明	○ 学校のみならず、他部署や他機関と連携して、問題解決への支援を行うことができた。 ○ 保護者の相談利用を増やすことができ、保護者の困り感を学校と共有することができた。 ○ 発展上の困難さがある児童に対して、授業観察や知能検査、担任や保護者との話し合いを早期にもつことで、二次障害(自信を失う、他児童とトラブルになるなど)を予防することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
	宜野湾市不登校出現率目標 ・小学校 0.35%以内 ・中学校 3.0%以内 「平成26年度 宜野湾市の学校教育」P42		目標 ()	(小学校 0.3%以内 中学校 2.5%以内)	(小学校 0.3%以内 中学校 2.5%以内)	(小学校 0.35%以内 中学校 3.0%以内)	(小学校 0.35%以内 中学校 3.0%以内)
	実績			小学校 0.46% 中学校 3.84%	小学校 0.29% 中学校 4.76%	小学校 0.63% 中学校 5.48%	
進捗状況説明	平成27年度の不登校児童生徒数は、小学校では、前年度と比べて2倍以上増加、中学校では、平成25年度から毎年、増加傾向にあり、相談内容が複雑化し、目標値を達成することができなかった。						

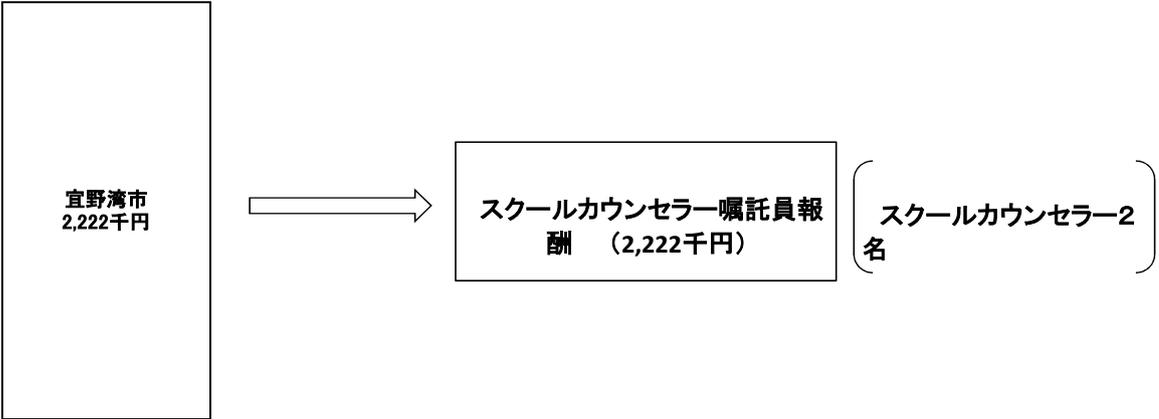
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本市の教育施策「根づくり教育」の実現に向けて、幼小中の連携を図りながら自己有用感や自己肯定の涵養を図る。</p> <p>平成27年度取り組み後の課題</p> <p>① 小学校、中学校とも不登校出現率が前年度を上回って、増加傾向にある。 ② 相談内容が深刻なため、1回あたりの相談時間が長くなっている傾向にある。</p>	<p>生徒指導、教育相談等に係る問題行動の解決についての検証</p> <p>① 不登校出現率の増加に対応するため、生徒指導に関する会議や授業参観・観察に積極的に参加し、不登校になる要因について学校との情報の共有を行う。 ② 1回あたりの相談時間が長くなることにより、相談後の教員へのフィードバックやコンサルテーションを行う時間が十分とは言えなかった。時間のバランスを考慮して活動する。</p>

今後の取り組み方針

スクールカウンセラーの業務成果として、保護者との関わり合いや他部署や他機関との情報共有を重視しながら不登校の要因を探ることができた。今後は、相談内容を教員へのフィードバックやコンサルテーションを十分に行うように取り組む。また、「学校における児童・生徒や保護者の相談、担任への対応助言」のみならず、スクールカウンセラーの勤務のない時間にも教員が対応できるように校内研修等でカウンセリング技能の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,222	2,222	1,777	445	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② スクールソーシャルワーカー活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-イ		
	担当部課名	指導部 青少年サポートセンター	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	
事業内容		近年の子供たちを取り巻く社会環境が著しく変化するなかで、遊び非行型及び心因性による不登校児童生徒の増加が懸念されている。このようなことから、スクールソーシャルワーカー等を配置し、学校及び関係機関と連携しながら不登校児童生徒の学校復帰に繋げる支援に取り組む。					
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				24年度	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,659	7,093	19,863	21,252	
		(b) 予算現額	4,659	7,093	19,033	20,613	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 830	▲ 639	
		(d) 繰越額	-				
	A. 計 (b+d)		4,659	7,093	19,033	20,613	
	B. 執行済額		2,927	6,715	17,732	18,972	
	うち交付金充当額		2,131	5,372	14,185	15,177	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		62.8%	94.7%	93.2%	92.0%	
予算の状況の説明		平成28年3月分を市単独費としたこと等があり、執行率が92.0%となった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	スクールソーシャルワーカー配置 第一相談室SSWアドバイザー(1名) 第一相談室SSWコーディネーター(4名) 市内小学校SSW(5名) 市内中学校SSW(8名)	目標	(6人)	(7人)	アドバイザー1名、 コーディネーター3 名、SSW13名	アドバイザー1名、 コーディネーター4名、 SSW13名	
		実績	6人	7人	アドバイザー1名、コ ーディネーター3名、SSW14名	アドバイザー1名、コ ーディネーター4名、SSW15名	
	【参考指標】 不登校児童生徒の支援数		目標	(100人)	(120人)	(170人)	(200人)
			実績	80人	126人	147人	452人
達成状況説明	平成27年度はSSWコーディネーターが1名増になり第一教育相談室のSSWは5名となった。市内6小学校と4中学校に15名(但し、常時配置は13名で入れ替わりの配置があったため)のスクールソーシャルワーカーを配置したことで、学校での教育相談担当、クラス担任の先生方へのスクールソーシャルワーカー活用について周知され取り組み等が増えたことにより、不登校児童生徒の支援が増えたものと考えられる。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	学校復帰人数 9人	目標	()	(9人)	()	()	()
		実績		9人			
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度はSSWコーディネーターが1名増になり第一教育相談室のSSWは5名となった。市内6小学校と4中学校に計15名のスクールソーシャルワーカーを配置したことで、生徒指導主任、教育相談担当、クラス担任等の先生方へのスクールソーシャルワーカー活用について周知され、スクールソーシャルワーカーの取り組み等が増えたことにより、不登校児童生徒の支援が増えた。 スクールソーシャルワーカーの取り組みは増えたものの、前年度からの継続での不登校ケースが多いため、学校復帰・学級復帰に繋がりにくいケースが多い。 貧困問題等家庭に問題のあるケースの増加により、児童生徒だけの問題ではなく、その他機関と連携した支援が増えている。 学校復帰目標人数9人に対して、復帰実績9人となり一定の成果をあげた。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーが小中学校で15名の配置となり、不登校児童生徒の支援体制の強化をすることができた。 ・新入生や新学期、又は休み明け等において、学校の方針やクラス環境になじめず、登校しぶりや30日以上休む不登校が多くなる現状がある ・深夜はいかい等で昼夜が逆転し生活リズムが整わず、朝登校ができない意学型や遊び非行型の不登校の児童生徒が増えてきた。 ・登下校支援や家庭訪問等について、学校配置相談指導員SSWの車両保険が適用できるよう対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中13校全ての学校にスクールソーシャルワーカーを配置することで、市全体の不登校児童生徒数の増加傾向を改善できる。 ・はごろもサポートネットワーク会議(HSN会議)や青サボ実務者研修会等を実施することで、児童生徒の理解や相談や対応の仕方、関係機関へのアプローチの方法などを習得、SSWのスキルアップを図ることで、児童生徒が抱える様々な問題に対処できる様になる。 ・個々のケースに対処すべく、学校や関係部署とのケース会議で十分な協議を重ね、家庭における保護者の養育についての検証、指導等も実施しながらスクールソーシャルワーカーの活用を図り、関係者の連携強化を推進していく。

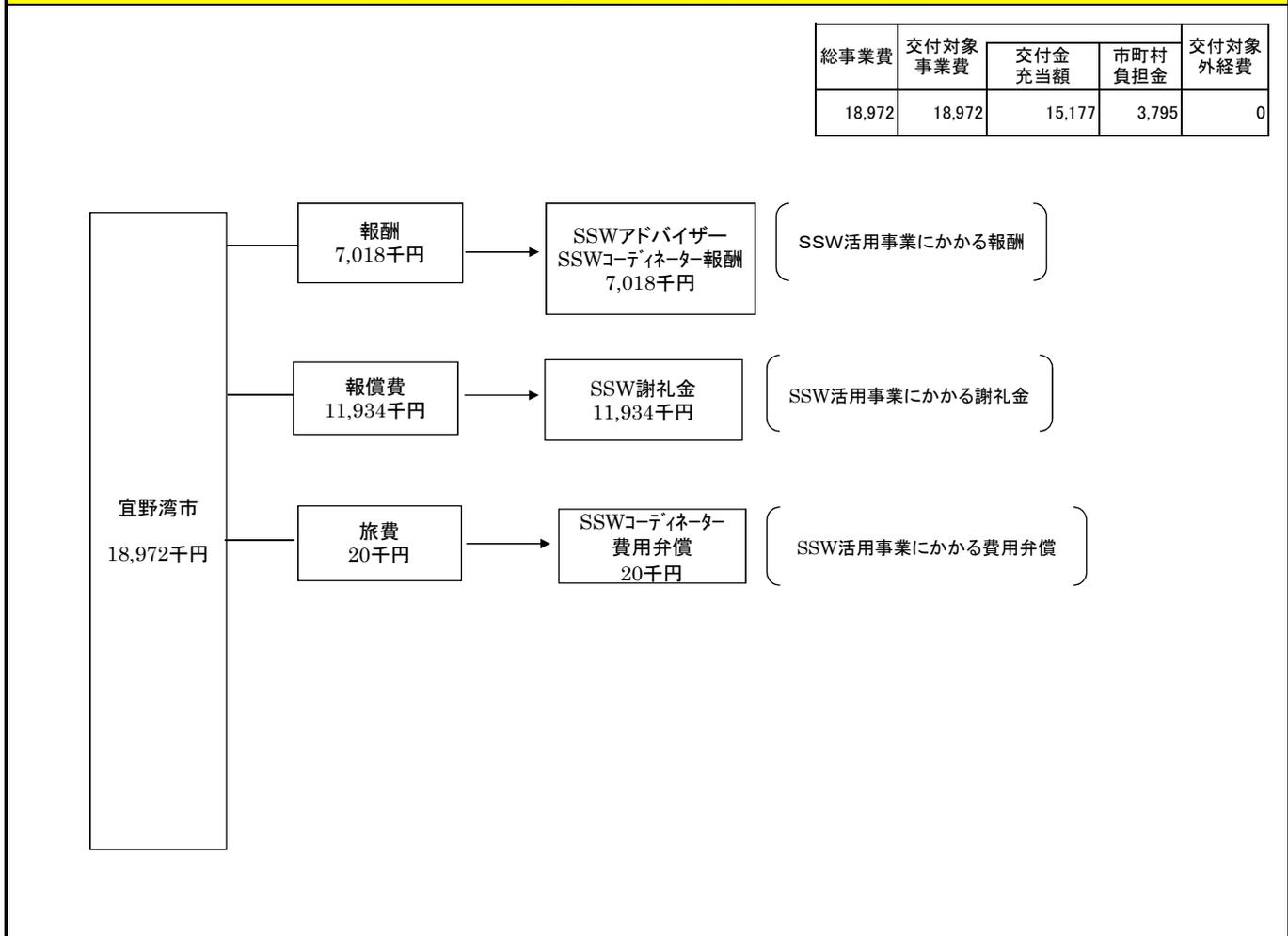
今後の取り組み方針

・関係団体の連携の中で、保育所・幼稚園から小学校、中学校へ上がる段階にて、心理的情緒的不安、発達障害及び遊び非行型不登校のおそれがある児童生徒の申し送り等で情報を共有し、幼小中連携により支援策の強化に努める。

・市内の小中学校関係者(教頭・生徒指導主任・教育相談担当)に対し、青少年サポートセンターの役割と学校配置相談指導員スクールソーシャルワーカーの業務を丁寧に行う連携会議を開催する。

・第一教育相談室SSWアドバイザーやSSWコーディネーターが定期的に学校巡回を行い、学校配置のSSWとの情報連携、行動連携を図りながら、問題を抱えた児童生徒の改善に努める。学校職員や警察、関係機関等の情報連携を図り、実務者研修会や講師を招聘し講演会やスーパーバイズを取り入れ、スクールソーシャルワーカーの困り感の解消と更なるスキルアップを図り、更なる支援活動の強化に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	適応指導教室事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24年度～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	不登校児童生徒の適応指導に関わる調査研究、教育相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊学習・自然体験活動及び他校との交流体験活動を実施するなど不登校児童生徒の学校適応を促進する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,871	3,771	3,810	3,768	
		(b) 予算現額	3,871	3,771	3,778	3,768	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 32	0	
		(d) 繰越額	-				
	A. 計 (b+d)		3,871	3,771	3,778	3,768	
	B. 執行済額		2,496	3,660	3,723	3,731	
	うち交付金充当額		1,900	2,928	2,978	2,984	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		64.5%	97.1%	98.5%	99.0%	
予算の状況の説明		平成27年度は、計画通りに事業執行ができ、執行率が99%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	適応指導教室在籍児童生徒数:4名		目標 (4名)	(4名)	(4名)	(4名)	
達成状況説明		<p>平成27年度は、不登校児童生徒の学校での集団生活適応能力向上のため、宿泊/自然体験の参加2回、他市町村の適応指導教室児童生徒の交流3回、社会体験活動8回、制作体験活動9回、スポーツ活動30回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、学校のみならず、他部署や他機関と情報共有しながら、入級相談・体験入級の受け入れを柔軟に行ったため、前年に比べ、在級児童生徒数の増加につながった。 ・青少年サポートセンターの臨床心理士と情報を共有しながら、見通しを立てた支援計画を検討することができた。 ・臨床心理士等による研修会に参加し、職員のスキルの向上ができた。 ・在級した中学3年生4名全員が、上級学校へ進学することができた。 <p>平成27年度若葉教室への登校日数(うち学校への登校) 【中3】 A 161(37) B 112(49) C 45(1) D 11(3) 【中2】 E 117(26) F 116(25) G 125(13) 【中1】 H 75(1)</p>					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	宜野湾市不登校出現率目標 ・小学校 0.35%以内 ・中学校 3.0%以内 「平成26年度 宜野湾市の学校教育」P42		目標 ()	小学校 0.3%以内 中学校 2.5%以内	小学校 0.3%以内 中学校 2.5%以内	小学校 0.35%以内 中学校 3.0%以内	小学校 0.35%以内 中学校 3.0%以内
	実績			小学校 0.46% 中学校 3.84%	小学校 0.29% 中学校 4.76%	小学校 0.63% 中学校 5.48%	
進捗状況説明		適応指導教室は、不登校児童生徒を支援し、学校適応を促進することを目標としており、教職員や不登校児童生徒の保護者への教育相談を実施し、適応指導教室への通級を円滑に進めている。また、児童生徒の家庭訪問を複数回実施し、保護者の悩み、家庭環境についても理解し、保護者との信頼関係を築いているが、不登校児童生徒数が、小学校では、前年度と比べて2倍以上増加、中学校では、平成25年度から毎年、増加傾向にあり、相談内容が複雑化し、目標値を達成することができなかった。					

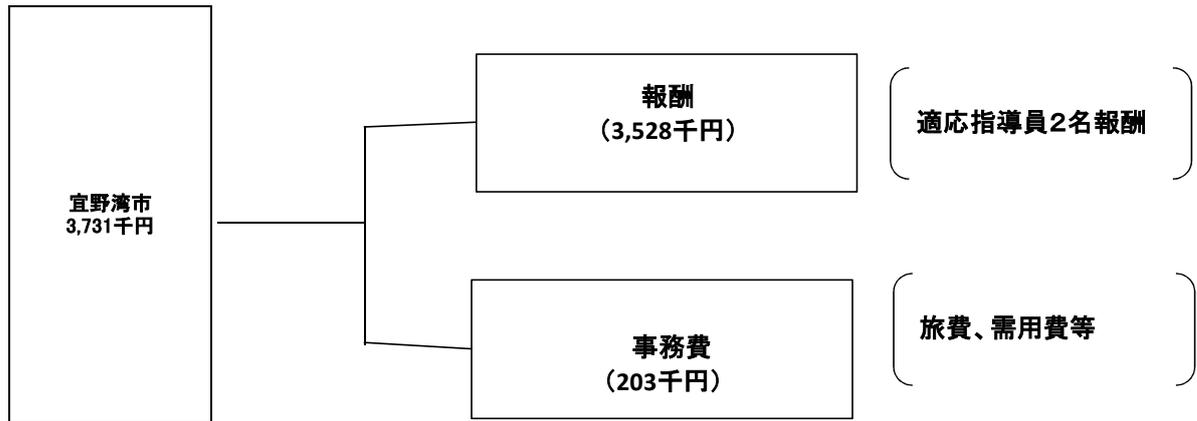
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本市の教育施策「根づくり教育」の実現に向けて、幼小中の連携を図りながら、自己有用感や自己肯定感の涵養を図る。</p> <p>平成28年度の課題</p> <p>① 小中学校ともに不登校出現率が増加している。</p> <p>② 多様な対応を必要とする児童生徒への、綿密な相談体制の充実が必要である。</p>	<p>① 学校や保護者との入級の相談や体験入級を柔軟に受け入れ、児童生徒、保護者、学校の不安軽減に努め、児童生徒の適応能力向上に努める。</p> <p>② 児童生徒の個々の特性に対応するため、保護者、学校のみならず、他部署、他機関との連携を行い、児童生徒の取り巻く環境を的確に把握する。</p>

今後の取り組み方針

適応指導教室は、通級児童生徒の集団への適応能力を向上させ、原籍校への復帰を目的とする。そのため、地域の方とのふれあいや、諸活動を通して集団能力の育成に取り組んでいる。原籍校への復帰は、長期的な取り組みが必要となり、短い期間での復帰は困難である。しかし、集団への適応能力の育成については、適応指導教室の行事等で育むことができる。そこで、適応指導教室の行事へ参加させることで、適応能力の育成に取り組んでいく。具体的には、①児童生徒へ各行事の情報を与え、各自の目標参加回数も設定する。適応指導教室は、支援員は、目標達成への支援を行う。②児童生徒の特性に応じた個別の原籍校へのチャレンジ登校の目標設定を行い、目標の達成を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,731	3,731	2,984	747	0



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-④ 児童生徒相談事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	指導部 青少年サポートセンター	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	
事業内容	市内の幼児・児童生徒(18歳未満)及び保護者等の悩みや教育上の問題について、青少年教育相談指導員、臨床心理士を配置し、問題解決を図るために相談業務の充実を図る。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	(a) 当初予算額	10,893	13,765	10,481	9,089	
	(b) 予算現額	10,893	13,763	9,020	7,635	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲2	▲1,461	▲1,454	
	(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)	10,893	13,763	9,020	7,635	
	B. 執行済額	7,066	13,083	8,969	7,625	
	うち交付金充当額	4,963	10,466	7,174	6,099	
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	64.9%	95.1%	99.4%	99.9%	
予算の状況の説明	平成27年度においても、計画通り事業執行ができ、執行率99.9%であった。臨床心理士の採用がなく、臨床心理士補助(資格はないが、大学院を卒業し、受験資格を有している者)任用にあたり、市の嘱託員設置規定に基づく報酬の為、毎月の報酬額の減があった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	青少年教育相談指導員配置:3名(第二相談室) 臨床心理士配置:2名(第二相談室)	目標 (13人)	(13人)	(6人)	(5人)	
		実績 13人	13人	6人	5人	
【参考指標】 小中学校の不登校生徒数 青少年サポートセンター第二教育相談室にて ①支援を行った不登校児童・生徒人数 ②支援を行った幼児・児童・生徒人数 ③支援を行った幼児・児童・生徒・保護者人数	目標	(100人)	(150人)	(170人)	(200人)	
	実績	93人	139人	162人	235人	
達成状況説明	27年度は、臨床心理士有資格者の配置は0名であった。臨床心理士受験資格を有している者(臨床心理士養成大学院を修了している者)2名の配置であった。青少年教育相談指導員は、認定心理士、精神保健福祉士などの資格を有する者3名の配置であった。 【参考指標】 ①小中学校における、心理的及び情緒的不安などによる不登校児童生徒へのカウンセリングや学習支援、居場所の提供を行った。26名の児童生徒への支援を行った。 ②小中学校における、心理的及び情緒的不安などによる不登校児童生徒へのカウンセリングや学習支援、居場所の提供を行った。また、学校へ登校しているが、何らかの課題(発達の偏り、学習の遅れ、対人関係の難しさなど)によって適応が難しい児童生徒へのカウンセリングやプレイセラピーを行った。71名の児童生徒への支援を行った。 ③小中学校における、心理的及び情緒的不安などによる不登校児童生徒へのカウンセリングや学習支援、居場所の提供を行った。また、学校へ登校しているが、何らかの課題(発達の偏り、学習の遅れ、対人関係の難しさなど)によって適応が難しい幼児、児童、生徒へのカウンセリングやプレイセラピーを行った。同時に保護者へのカウンセリングも行い、家庭での関わり方や支援の方向性について助言などを行った。138名の幼児、児童生徒及びその保護者への支援を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	学校復帰人数 4人	目標 ()	(4人)	()	()	()
	実績		4人			
進捗状況説明	27年度は、不登校(登校渋り)を主訴として第二教育相談室で相談を実施した小学生1人、中学生3人が学校復帰となり、学校復帰目標人数4人に対して、復帰実績4人となり一定の成果をあげた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年サポートセンター第二教育相談室における、心理的情緒的不安を理由とする不登校児童生徒への支援については、これまで同様、保護者や学校から受ける相談は多い。 ・登校しているが発達の違いや学習の遅れなどにより、学校への不適応感を抱えている幼児、児童生徒に関する相談も多く、不登校を未然に防ぐ支援として学校側のニーズが高い。 ・臨床心理士に対して、初回面談、心理検査、巡回相談などの依頼が多く、上述の相談を受けるにあたり、専門性や経験を持った心理士の活用は必須であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的情緒的不安を理由とする不登校児童生徒の相談、発達の偏りや学習の遅れなどによる学校での不適応感を抱える幼児・児童生徒の相談が増えたことにより、臨床心理士の負担が大きくなることが予想されることから、臨床心理士の増員を求め、相談体制の更なる強化・効率化を図る。 ・学校や福祉関連課、医療機関などとの連携を図りながら、きめ細やかな相談業務を強化する。

今後の取り組み方針

・青少年サポートセンター第二教育相談室における支援活動については、保護者や学校、関係機関からの依頼が多いことから、臨床心理士の増員や青少年教育相談指導員の専門性の向上のための施策を講じていく。

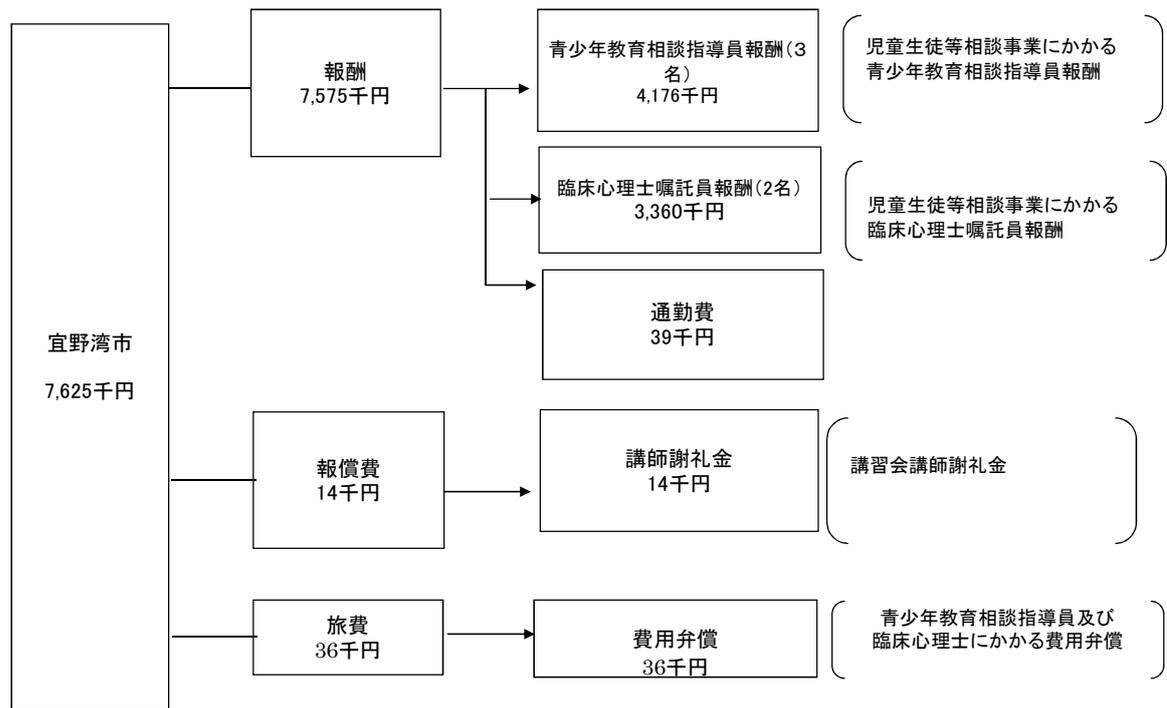
・教育相談担当教諭、生徒指導担当教諭、スクールカウンセラーなど学校との連携を密に行い、学校と青少年サポートセンター、互いの支援方法を協議することで、よりよい支援の方向性を見出す。また、福祉関連課や医療機関などとも連携し、支援を必要とする幼児、児童生徒及びその保護者に対し、個々の状態に合わせた支援を行うよう心掛ける。

・保育所・幼稚園から小学校へ上がる段階で他機関で実施する就学指導委員会での発達判定の強化を図り、入学時の環境の変化を学校と連携を図りながら対応する。

・中学校へ上がる段階にて、心理的情緒的不安、発達障害及び遊び非行型不登校のおそれがある児童生徒の申し送り等で情報を共有し、幼小中連携により支援策の強化に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,625	7,625	6,099	1,526	0



資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

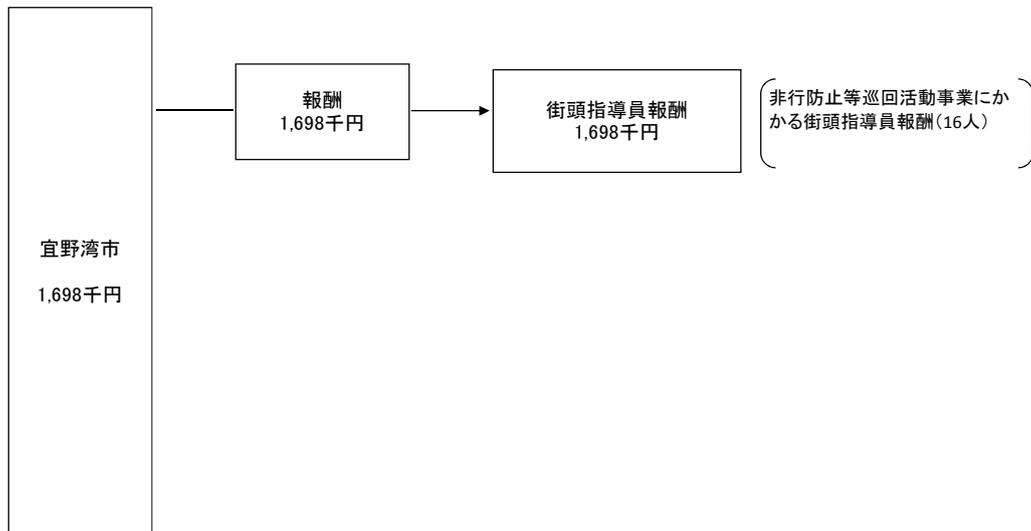
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤ 非行防止等巡回活動事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ				
担当部署	指導部 青少年サポートセンター	事業実施(予定)年度	平成24~33年度				
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)				
事業内容	児童生徒の健全育成を図る観点から、関係機関や地域と連携して少年少女の問題行動に対して必要な注意・助言・指導を行うため、夜間街頭指導員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,990	2,072	1,953	1,960	
			1,990	2,072	1,890	1,960	
			0	0	▲ 63	0	
			-				
			1,990	2,072	1,890	1,960	
	B. 執行済額		1,362	1,813	1,600	1,698	
	うち交付金充当額		1,010	1,450	1,279	1,358	
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		68.4%	87.5%	84.7%	86.6%	
予算の状況の説明		平成27年度は、平成28年3月16日以降分を市単独費としたが、86.6%の執行率となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	深夜はいかいする児童・生徒の指導件数: 400件	目標 (650件)	(650件)	(600件)	(400件)		
		実績 634件	620件	526件	447件		
【参考指標】 夜間街頭指導員配置	目標 (16人)	(16人)	(16人)	(16人)			
	実績 16人	16人	16人	16人			
達成状況説明	・市内の公園を中心に、コンビニ・ゲームセンター、地域からの巡回要請箇所や空店舗等を4人1人グループで班をつくり、4班体制で週3回の夜間巡回指導を実施している。平日においては同じ曜日の巡回では子供たちに覚えられてしまうため、月によって平日の巡回曜日を変更するなどの工夫を凝らしている。 平日に一日(21時~23時、金曜日、土曜日を定例とし22時~24時の時間帯を巡回指導を行い、青少年が事件事故に関わることが無いよう未然防止と抑止効果に繋げ、前年度より約80件の指導実績を減らす事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	夜間巡回活動の巡回箇所の見直し、指導の強化を図り児童生徒の事件事故等の未然防止に繋げる。	目標 ()	()	()	(巡回活動の見直し、指導の強化)	()	
		実績				巡回活動の見直し、指導の強化を図った	
	【参考指標】 夜間街頭指導員配置・活動人数 16人	目標 (16人)	(16人)	(16人)	(16人)	(16人)	
実績			16人	16人	16人		
進捗状況説明	・近年の夜間街頭指導の指導実績の推移をみると、平成22年度(883件)、23年度(773件)、24年度(634件)、平成25年度(620件)、平成26年度(526件)、平成27年度(447件)と効果をあげている。 ・夜間街頭指導実績が、ここ数年は減少傾向にあり、平成27年度における指導件数は前年度(平成26年度)から約80件減少した。 ・最近の傾向として、インターネットの普及によるスマホ等のアイテムを使ってのゲーム、音楽、その他の使用により、外での遊びが少なくなる傾向にはあるが、同じ人を何度も指導している傾向にある。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度においても、これまで同様、児童・生徒が下校する時間帯、15時～18時の間の街頭指導が無いため、交通安全や変質者等から児童生徒の安全を確保する見地から必要性のニーズが高い。 死角のある公園においては、できるだけ毎回巡回する。 子供たちに巡回するコース、時間帯を覚えられてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 下校時の街頭指導を、学校、各中学校区の青少年補導員、地域自治会のボランティア及び老人クラブ等と連携を強化する。又、警察との連携を密にし、情報の共有化を推進し、非行の見背防止と早期発見・早期対応に努める。 夜間街頭パトロールの際、警察(地域課)との連携を図り、巡回方法、声かけについての指導方法を学ぶ。 巡回のコース、時間帯を変える。 大人の多く集まる公園等を警察に巡回をお願いする。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登校、下校時の安全確保及び夜間街頭指導については、PTA保護者の活用や警察署の補導員協議会、青少年健全育成協議会等や地域の協力も得ながら取り組んでいきたい。 青少年サポートセンター職員が学校等を訪問する際には、青色回転灯を活用し、犯罪防止の抑止力に繋げる。 警察(地域課)職員と、定期的に時間を調整し、街頭巡回に共に行動を図る。 街頭指導の研修会の更なる充実を図り、街頭指導のスキルアップを図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
1,698	1,698	1,358	340	0



資金の流れ、費目、用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥ 学習支援員活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学習に遅れをとっている児童・生徒が自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,596	21,893	23,716	23,715	
		(b) 予算現額	14,596	21,893	23,566	23,715	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 150	0	
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)		14,596	21,893	23,566	23,715	
	B. 執行済額		9,594	21,844	21,475	23,677	
	うち交付金充当額		7,600	17,514	17,180	18,941	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		65.7%	99.8%	91.1%	99.8%	
予算の状況の説明		当初計画どおり適切な人員配置・割り振りで事業執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習支援員の配置	目標	(8校8名)	(12校12名)	(13校13名)	(13校13名)	
実績		8校8名	12校12名	13校13名	13校13名		
達成状況説明	当初予定通りの人員の配置ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	※市内小学校における全国学力・学習調査の平均正答率	目標		※全国調査 ＜小学校＞ 国語A:62.7 国語B:69.4 算数A:77.2 算数B:58.4 ＜中学校＞ 国語A:76.4 国語B:67.4 数学A:63.7 数学B:41.5	※全国調査 ＜小学校＞ 国語A:80 国語B:60 算数A:80 算数B:60 ＜中学校＞ 国語A:80 国語B:70 数学A:65 数学B:55	※全国調査 ＜小学校＞ 国語A:80 国語B:60 算数A:80 算数B:60 ＜中学校＞ 国語A:80 国語B:70 数学A:65 数学B:45	()
		実績		※全国調査 ＜小学校＞ 国語A:58.4 国語B:45.7 算数A:74.8 算数B:54.3 ＜中学校＞ 国語A:68.5 国語B:61.1 数学A:51.5 数学B:27.8	※全国調査 ＜小学校＞ 国語A:69.8 国語B:53.7 算数A:82.4 算数B:56.7 ＜中学校＞ 国語A:72.5 国語B:44.1 数学A:59.3 数学B:49.5	※全国調査 ＜小学校＞ 国語A:68.6 国語B:65.7 算数A:78.4 算数B:43.6 ＜中学校＞ 国語A:69.6 国語B:60.4 数学A:55.0 数学B:34.0	

【参考指標】 学習支援員の配置:13校13人 小学校9校9人、中学校4校4人	目標	()	学習支援員の配置:12校12人 小学校8校8人、 中学校4校4人	学習支援員の配置:13校13人 小学校9校9人、 中学校4校4人	学習支援員の配置:13校13人 小学校9校9人、 中学校4校4人	()
	実績	/	学習支援員の配置:12校12人 小学校8校8人、 中学校4校4人	学習支援員の配置:13校13人 小学校9校9人、 中学校4校4人	学習支援員の配置:13校13人 小学校9校9人、 中学校4校4人	/
進捗状況説明	<p>年度始めに研修会を実施し、サービスや支援のあり方などを周知した。 全国学力学習状況調査で、小、中ともに全教科で中頭平均を超えた(WEB採点)。 目標達成は出来ていないが、年々全国平均との差は縮めている。小学校においては、あと0.3ポイント差まで来ている。</p>					

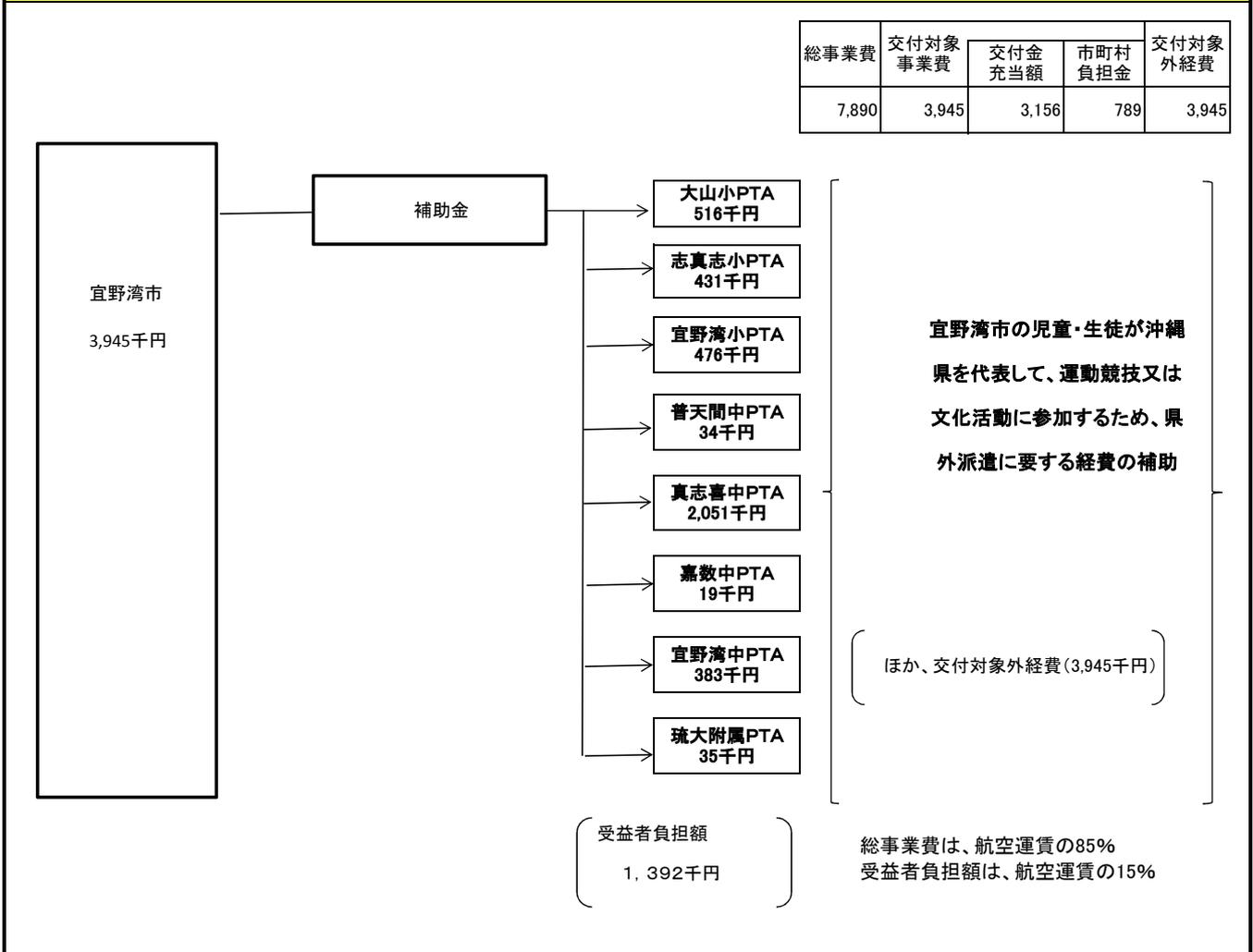
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>新規で採用になった学習支援員に対して、児童生徒への対応の仕方、また指導の方法について支援指導を行う。</p>	<p>学習支援に対して、配属校の学力の現状、課題の把握、また課題改善の方策に支援になるような研修会や資料を提供する。また、学校においても有効に活用できる様にする。</p>
今後の取り組み方針		
<p>平成27年度は、小学校9校、中学校4校に学習支援員を配置し、児童生徒の個別指導の充実を図った。中学校では、学習指導員の配置する教科を数学に限定し、課題解決に取り組んだ。その結果、全国学力学習状況調査の小学校は国語B・算数Aで全国平均を上回った。中学校においても-7.3ポイントに全国平均との差を縮めた。 幼小中連携授業を中心に、幼稚園、小学校、中学校と連携した学習規律の徹底や授業づくりについて共通実践する。また、引き続き全国平均との差を縮めるために、指導主事による巡回指導を行っていく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	23,677	23,677	18,941	4,736	0
<p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 宜野湾市 23,677千円 </div> <div style="font-size: 24px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学習支援員報酬・通勤手当 23,677千円 </div> <div style="font-size: 24px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 【学習支援員13校13名】 </div> </div> </p>					
資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。		
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	派遣費補助金交付事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部課名	指導部・学務課	事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童・生徒の文化活動及びスポーツを奨励するため、学校教育の一環として県外に派遣される場合に要する旅費等を補助する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	15,809	13,397	13,397	12,689	
		(b)予算現額	18,251	6,322	13,925	9,674	
		(c)増減額(b-a)	2,442	▲7,075	528	▲3,015	
		(d)繰越額	—	0	0	0	
	A. 計(b+d)		18,251	6,322	13,925	9,674	
	B. 執行済額		3,585	3,160	3,491	3,945	
	うち交付金充当額		2,867	2,528	2,793	3,156	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		19.6%	50.0%	25.1%	40.8%	
予算の状況の説明		・事前に各学校に対して、当該年度補助金対象となる大会等の有無について調べを行なった結果であるので、適正に実施出来たと考えるが、県外へ派遣された団体数の減により、執行率が40.8%となった。また、当初目標としていた県外派遣団体数よりも減少したことにより、3,015千円の減となった。					
活動目標(指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	県外派遣された団体への支援を実施		目標 (団体への支援)	()	()	()	
			実績	団体へ支援を実施した			
達成状況説明	当初の目標どおり、県外へ派遣されることとなった団体へ補助を実施できた。 なお、補助する団体数の目標としては、過年度を参考に19団体を目標値としていたが、中体連主催等の県大会において優秀な成績を得て県外派遣された生徒が、7団体であったこと。文化活動においての県外に派遣された児童生徒が6団体であったこと。 以上の理由から、目標値より6団体減となった。						
成果目標(指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	県外派遣補助金を交付することによって、保護者の経済的負担軽減、児童生徒の健全育成を図る。		目標 ()	()	()	()	()
			実績			負担軽減・健全育成を図る	
	【参考指標】支援団体数		目標 ()	(30団体)	(30団体)	(19団体)	()
			実績	23団体	11団体	13団体	
進捗状況説明	当初の目標どおり、児童生徒の県外派遣補助金を交付することにより、市内の児童生徒の県外への派遣が推進され、児童生徒の健全育成を図ることができた。 なお、参考指標について、補助する団体数の目標としては、過年度を参考に19団体を目標値としていたが、中体連主催等の県大会において優秀な成績を得て県外派遣された生徒が、7団体であったこと。文化活動においての県外に派遣された児童生徒が6団体であったこと。以上の理由から、目標値より6団体減となった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本事業の対象経費である、児童生徒が県外へ派遣された際の航空券の搭乗半券等を紛失しないよう周知に努める。また、学校側(PTA)から保護者への補助金の授受について、受領証明書の取り忘れがないよう周知徹底に努める。	左記の件を留意して取り組んでいただけるよう学校側へ周知していきたい。
	今後の取り組み方針	
上記の件を遺漏なく実施できるよう、学校と教育委員会との情報連携を図っていきたい。		

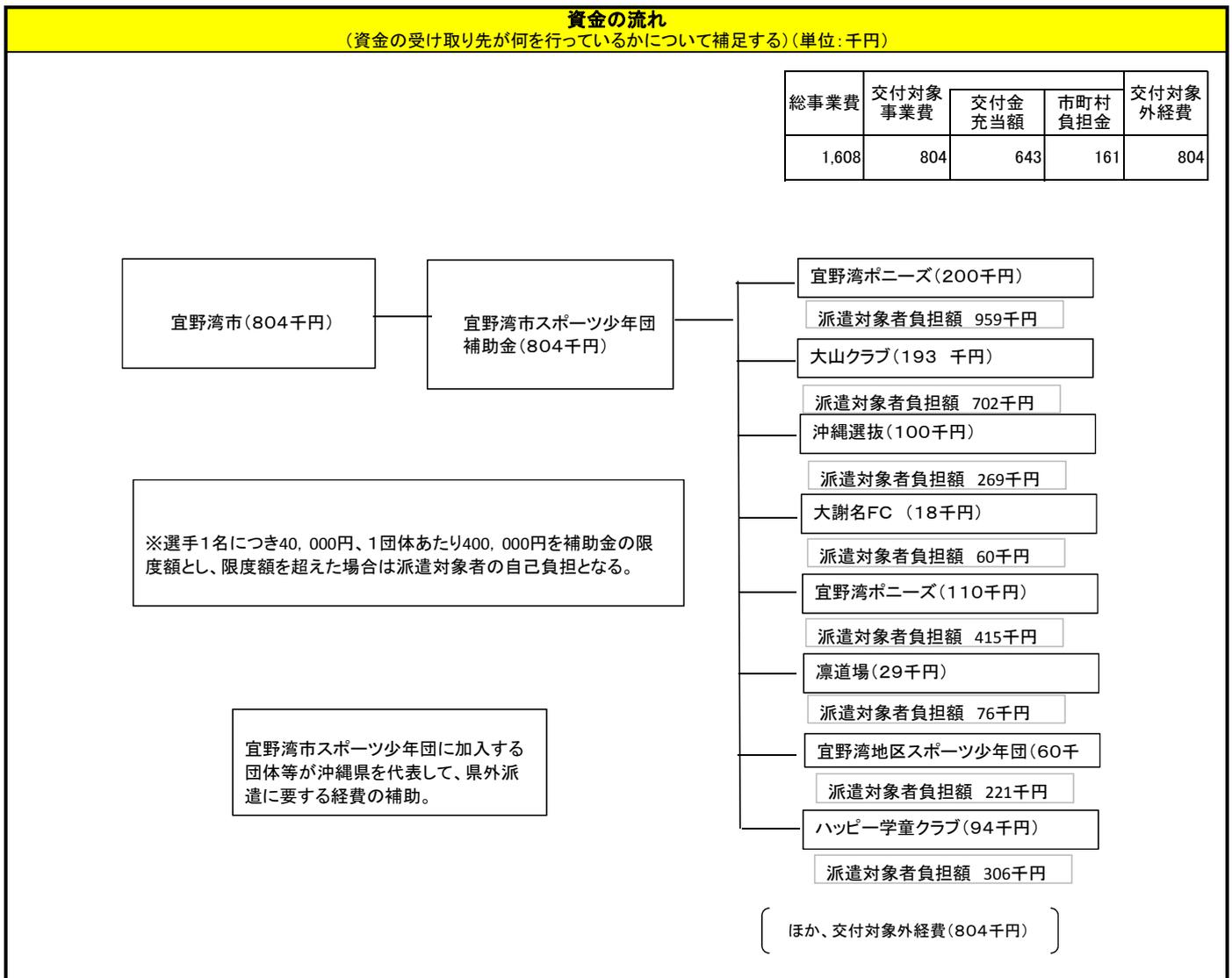
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各種目競技において県代表として決定した児童・生徒が在籍する学校(P・T・A連合会)から実績等を提出させ、内容を精査したうえで、補助金交付決定を行っているので適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、今後H26、H27実績を踏まえ検討する必要がある。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○派遣費補助金に関しては、市(教育委員会)で定めている要綱に基づき補助額を決定しているため、受益者との負担関係は妥当であると考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑧ スポーツ少年団派遣費補助事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部課名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	スポーツ活動による児童生徒の健全育成を図るため、一定の基準を満たすスポーツ少年団等の県外派遣を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	1,818	3,160	2,461			
	(b) 予算現額	1,818	3,160	2,461			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0			
	(d) 繰越額	0	0	0			
	A. 計 (b+d)	1,818	3,160	2,461			
	B. 執行済額	400	427	804			
	うち交付金充当額	320	341	643			
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)	22.0%	13.5%	32.7%			
予算の状況の説明	平成27年度におけるスポーツ少年団派遣費補助に係る当初予算については、過年度(3ヵ年)の執行額(最高額)を参酌し計上(対象外経費含む)。スポーツ少年団の県内大会成績・派遣対象人数等に大きく左右されるが、前年度と比較して執行率は上がっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	県外派遣された団体への支援を実施	目標	(派遣補助)	()	()	()	
		実績	派遣補助実施				
達成状況説明	平成25年度は2団体(野球競技32名)への補助。平成26年度は8団体、4競技27名となる。平成27年度は8団体54名への補助を行った。県内大会(予選等)成績に左右される側面もあるが、引き続きスポーツ少年団活動の支援に努めたい。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	県外派遣補助金を交付することによって、保護者の経済的負担軽減、児童生徒の健全育成を図る。	目標	()	()	()	(経済的負担軽減および児童生徒の健全育成を図る)	()
		実績				(経済的負担軽減および児童生徒の健全育成が図られた)	
	【参考指標】 補助団体数	目標	()	(16団体 141名)	(16団体)	(16団体)	()
		実績		2団体 32名	8団体 27名	8団体 54名	
	進捗状況説明	当初の目標どおり、児童生徒の県外派遣補助金を交付することにより、市内の児童生徒の県外への派遣が推進され、児童生徒の健全育成を図ることができた。 なお、参考指標について、補助する団体数の目標としては、過年度を参考に16団体を目標値としていたが、県内大会(予選等)成績に左右される側面もあり、8団体であったことから、目標値より8団体減となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・本市スポーツ少年団加盟団体へ説明会等開催し、周知に努めること。また、スポーツ少年団加盟団体以外の団体への対応が必要と思われる。</p>	<p>・本市スポーツ少年団との連携を密にしながら、より迅速で緻密な支援を図っていききたい。</p> <p>・本市スポーツ少年団未加入の団体や個人に関しては、加盟の促進に努めていききたい。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・スポーツ少年団事務担当者への講習等実施し、県外派遣補助申請事務の効率を図りたい。</p>		



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・ 使途 の 点 検 評 価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	<p>○各種目競技において県代表など優秀な成績を修めた団体から実績等を提出させ、内容を精査したうえで、補助金交付決定を行なっているので適正であった。</p> <p>○予算規模は、過年度における予算額の最高額を計上していたが、今後の実績を踏まえ検討する必要がある。</p> <p>○本市スポーツ少年団県外派遣に関する補助基準に基づき補助額を決定しており、受益者との負担関係及び事業目的に即したもとなっている。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 宜野湾市

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (3-2 歴史公文書等整理・活用事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-1-(4)-ア), 担当部課名 (教育部 文化課), 事業実施(予定)年度 (平成24~33年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-3-(2))

事業内容 歴史的価値を有する宜野湾市(村)の公文書等を整理し、今後の市民・利用者の資料要求に迅速に対応することを目的に、公文書等の整理、保存及び検索システムへの登録や公開にあたっての基づくりを行う。

実施方法 ■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()

Table with 7 columns: 24年度, 25年度, 26年度, 27年度, 28年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円), (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: H27活動目標(指標), 24年度, 25年度, 26年度, 27年度. Rows include: 達成状況, 目標, 実績, 公文書の一般公開に向けた取り組みを行う, 達成状況説明

Table with 7 columns: H27成果目標(指標), 基準値(年度), 25年度, 26年度, 27年度, 目標値(33年度). Rows include: 成果目標(指標)及び進捗状況, 目標, 実績, 進捗状況説明

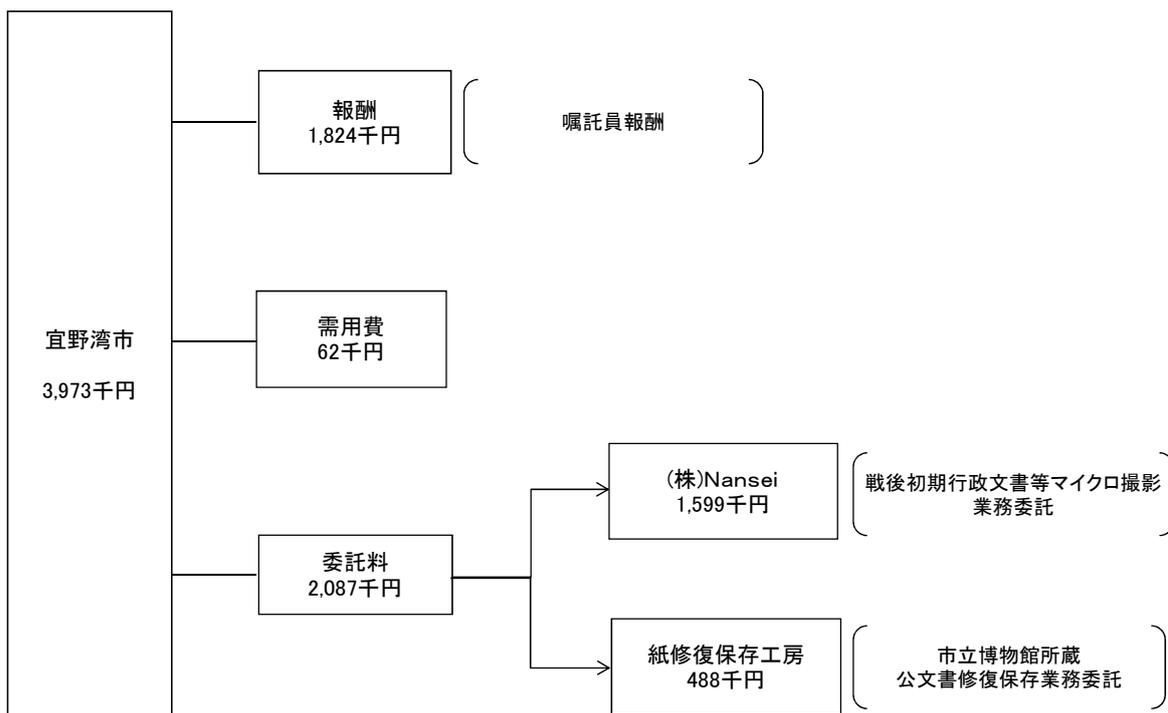
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> データベース化の際、公文書の内容や学術的価値の把握により、資料内容の記載が変わる可能性がある。入力の際には、評価選別ができる人材が行うとスムーズに作成できる。 60～70年前の公文書の中には劣化や損傷のある文書もあり、これらの状態を考慮して優先的に整理、または修復を進める。また、文書のCD化を進め、原本は保存、CDは活用用と分けて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 所蔵公文書が1946年から近年と年代が幅広いため、戦後初期から沖縄本土復帰(1972年)の米軍統治期に係る文書、復帰以降から現在に至る文書に大別し、その時代背景と状況を考慮した上で整理を行う。 過去の活用傾向をみると1950年代以前の文書の閲覧が比較的多く、近年の文書の利用は低い。その点から公文書の整理、CD化、公開基準作りについては、公文書を一緒に考えず、時代性を考慮して検討する。

今後の取り組み方針

・整理に関しては、1946年から1972、73年の文書を優先して進め、それ以降の文書は時代背景、市政の位置付け、施策に関する文書等、文書の特徴を見極めて整理を進める。
 ・事業開始から5年目をむかえ、所蔵文書の内容的な全体像がみえつつあり、公開基準(案)作りを検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,973	3,973	3,178	795	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指定業者による入札において行われており、嘱託員も実績、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であると考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①		平和市民啓発事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築						
担当部署名	企画部 市民協働推進課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の青少年と交流し、命の尊さや平和意識について学ぶため、8/9に長崎で開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に市内生徒8名を派遣する。 ・沖縄戦から70年の経過を機に、平和祈念事業を実施することにより、戦争の悲惨さ・平和の大切さを市民に啓発する。 						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,099	1,005	1,030	3,331	
		(b) 予算現額	885	1,005	1,030	3,331	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 214	0	0	0	
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		885	1,005	1,030	3,331	
	B. 執行済額		884	996	1,026	3,329	
	うち交付金充当額		706	797	820	2,662	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	99.1%	99.6%	99.9%	
予算の状況の説明		・平和学習派遣事業、平和祈念事業にて当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	平和学習派遣	目標	(8人)	(8人)	(平和学習派遣実施)	(平和学習派遣実施)	
		実績	8人	8人	平和学習派遣実施 8人	平和学習派遣実施 8人	
	イベントの実施	目標	()	()	()	(1回)	
		実績				1回	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校4校から推薦を受けた合計8人の中学生を長崎市へ派遣した。 ・沖縄戦から70年の経過を機に、「宜野湾市戦後70年平和祈念事業」を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	平和学習派遣生徒数:8人	目標	(0)	(8)	(8)	(8)	()
		実績		8人	8人	8人	
	宜野湾市戦後70年平和祈念事業(イベント集客人数:300人)	目標	()	()	()	(300)	()
		実績				222人	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校4校から推薦を受けた合計8人の中学生を長崎市へ派遣した。 ・派遣中学生は当事業で得た成果について、市長へ報告を行うなど、平和意識の高揚につながった。 ・派遣後の生徒を活用し、「宜野湾市戦後70年平和祈念事業」に派遣生徒を出演させた。 ・啓発効果の高いイベントを開催するため、企画提案の公募を行い、「宜野湾市戦後70年平和祈念事業」を実施した。 ・平和祈念事業を実施するにあたり、市内の他事業と日程が重なったため、目標人数を上回ることが出来なかった。 					

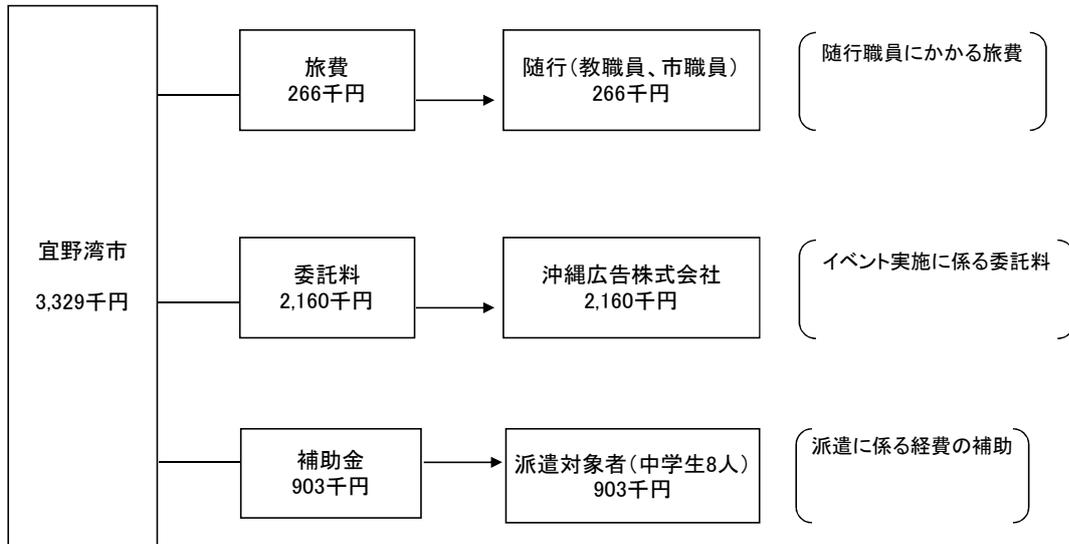
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後70年が経過し、悲惨な過去の歴史をどのように教訓として受け継ぐかが平和行政の課題となっている。長崎市で行われるピースフォーラムの内容は、現在の学生にも十分学んでもらえる内容となっており、特に問題はないと考えている。 ・これまで「慰霊の日事業」と銘打ち、平和啓発事業を推進してきたが、戦後70年の節目を迎えるに当たり、改めて集客力の高く、啓発効果の高いイベントを開催するため、プロポーザル方式を採用し「宜野湾市戦後70年平和祈念事業」を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和学習派遣」については、左記の通り従来通りで問題ないと考えている。 ・「平和祈念事業」については、新規の参加者、特に若者の参加者が少なかったため、今後、事業内容の検討の余地があると考えている。

今後の取り組み方針

- ・事前学習を踏まえた派遣事業を今後も継続して取り組みたい。
- ・派遣後の生徒の活用として、今後も市の平和祈念事業に派遣生徒を出演させることを計画している。
- ・平和祈念事業については、戦争の悲惨さ、命の尊さを若い世代へ継承していくことに重点をおき、事業実施を計画したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,329	3,329	2,662	667	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先選定については、市内中学校校長より推薦された生徒であり、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額は、当初予算額の1%以内であり、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である市内中学生に対して、派遣費の全額を補助しているが、妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成のために必要なものに補助しており、支出は適正であった。

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-② 小学校英語教育課程特別校事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	担当部課名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本市は、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むため、外国人英語指導助手(ALT)及び日本人英語教師(JTE)を小学校に派遣する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	47,027	46,247	48,801	48,801	
		(b) 予算現額	47,027	46,247	48,675	47,919	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 126	▲ 882	
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	47,027	46,247	48,675	47,919	
	B. 執行済額		29,953	45,264	46,960	46,489	
	うち交付金充当額		22,000	36,211	37,567	37,191	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		63.7%	97.9%	96.5%	97.0%	
予算の状況の説明		ほぼ満額状況で適切な人員配置・割り振りであった。3月議会にて補正減をしているが、これは4月当初のALTの未配置、ALTの中途退職の未配置及び欠勤によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ALT(外国人英語指導助手)及びJTE(日本人英語教師)を配置:全小学校(9校) ALT9人	目標	(8校8名)	(8校8名)	(9校9名)	(9校9名)	
		実績	8校8名	8校7名	9校8名	9校9名	
	ALT(外国人英語指導助手)及びJTE(日本人英語教師)を配置:全小学校(9校) JTE9人	目標	(8校8名)	(8校8名)	(9校9名)	(9校9名)	
		実績	8校8名	8校10名	9校10名	9校9名	
達成状況説明	市内9小学校にALT9名、JTE9名を配置した。目標は1小学校にALT1名、JTE1名だが、ALT・JTEの応募者数の違いや、応募者のALT・JTEとしての指導力スキルやコミュニケーション能力を総合的に判断した結果、ALT、JTEのバランスが異なる配置となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	小学校児童英語検定総合平均点数の増 H27年度受験率100% (基準値:H24年度100%) ブロンズコース総合平均85点以上 シルバーコース総合平均80点以上	目標	()	()	()	受験率100% ブロンズ:85点 シルバー:80点	()
		実績				受験率100% ブロンズ:88.9点 シルバー:84.0点	
	【参考指標】 小学校児童英語検定受験者数の増 H25年度は2,032人の受験者数 H26年度は1,999人の受験者数 H27年度は1,995名の受験者数	目標	(2,100名)	(2,112名)	(2,000名)	(2,000名)	(20,000名) 累計
		実績		2,032名	1,999名	1,995名	
	進捗状況説明	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れしませながら、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標に、小学校の学級担任を中心に、ALT・JTEが連携して小学校外国語活動を進めている。受験者数については、受験日と中学校体育連盟体育大会が重なり、目標値を達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・同一校3年勤務の異動対象者の、異動校での出勤状況、指導状況の把握。 ・新規採用ALT・JTEの指導の支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロンズコース、シルバーコースともに目標値を上待っている。 ・シルバーコースに関しては、文字表記の面で課題がある。 ・HRT、ALT、JTEの資質向上を図る研修会の実施 ・講義形式の研修方式から、より実践的なスキルを向上するため、検証授業やその後の授業検討会を実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
<p>小学生の頃から、英語に親しませ、英語の楽しさを伝え、コミュニケーション能力の素地を養う。 小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続を図る。 音声面の充実とともに文字文化への関心を高めていく。そのために授業での教材の工夫改善を図る。 指導面の工夫改善を図るために、指導の手引きを夏季休業中に指導者全体で改訂を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	46,489	46,489	37,191	9,298	0
<pre> graph LR A[宜野湾市 46,489千円] --> B[賃金 43,699千円] A --> C[報酬 2,790千円] B --> D["[ALT(外国人英語指導助手 小学校9校9名) JTE(日本人教師):小学校9校9名]"] C --> E[ALT・JTEコーディネーター 1名] </pre>					

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-③ 外国人教師招致事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	本市は、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むため、外国人英語指導助手(ALT)を中学校に派遣する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,213	10,212	10,212	10,213		
		(b) 予算現額	10,213	9,770	10,053	9,997		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 442	▲ 159	▲ 216		
		(d) 前年度繰越額	-	-	-			
	A. 計 (b+d)		10,213	9,770	10,053	9,997		
	B. 執行済額		6,680	9,575	9,700	9,578		
	うち交付金充当額		5,000	7,660	7,759	7,662		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		65.4%	98.0%	96.5%	95.8%		
予算の状況の説明		ほぼ満額状況で適切な人員配置・割り振りであった。3月議会にて補正減をしているが、これはALTの中途退職の未配置の残、及びALTの欠勤分によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	ALT(外国人英語指導助手)の配置 :全中学校(4校) (各中学校1人配置)		目標 (4校)	(4校)	(4校4人)	(4校4人)		
		実績	4校	4校	4校4人	4校4人		
達成状況説明		当初予定通りの人員の配置ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	中学校英語検定受験者数の増 H27年度受験率:43% (基準値:H24年度:40.2%) 英語検定5級合格率85%		目標	()	()	()	受験率:43% 合格率85%	()
			実績				受験率:36.8% 合格率79.1%	
	【参考指標】 中学校英語検定受験者数の増 H25年度は1,287人の受験者数 H26年度も約1,500人の受験者を予定		目標	(1,574名)	(1,200名)	(1,500名)	(1200名)	()
			実績		1,287名	1,212名	1102名	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 各中学校にALTを一人ずつ配置し、英語担当教諭と連携しながら、英語教育の助手として、生徒の英語力向上に努めている。 具体的には、英語担当教諭の指示による生徒に対する英語の発音指導及びコミュニケーション能力の向上に繋がる活動を行っている。 検定3回中、1回目が中学校体育連盟体育大会と重なったため、受験者数が減となっている。 受験率と合格率が目標達成できていない。 						

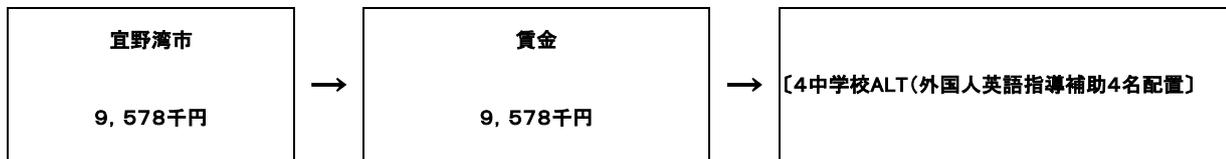
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・検定業者は公益財団法人日本英語検定協会による全国一斉テストであり、3回中1回が中学校体育連盟体育大会と重なるため、受験者数の減は免れない。 ・同一校勤務3年以上のALTに対して、異動校での勤務状況、指導状況の把握。 ・ALTが家族の関係で急遽退職し、次の担当がなかなか見つからなかった。 ・小学校のALTの使用するテキストの難易度がやや低い。 ・中体連との重なりで受験者数が減り、意欲のある生徒が受験できず、結果的に合格率も下がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英検受験者数を増やす。 ・授業力の向上を図る研修会の実施 ・ALTの授業スキルに関する研修会の充実 ・途切れなくALTを配置できるよう、面接時に、継続して勤務できるかどうか確認する。 ・小学校のALTの使用するテキストを今年度で見直し、新しいテキストを使用する。 ・中体連との重なりを避け、各学校が本会場となるようにする。

今後の取り組み方針

- ・校長会、教頭会、外国語担当者研修会で、英検受験の呼びかけを行う。
- ・研修会等を通して、ALTと教科担任によるチームティーチングの授業改善を推進する。
- ・小学校の英語教育課程特例校事業のコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ・中学校体育大会の次の日に4校全て準会場とし、受験者数を増やす努力をする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
9,578	9,578	7,662	1,916	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

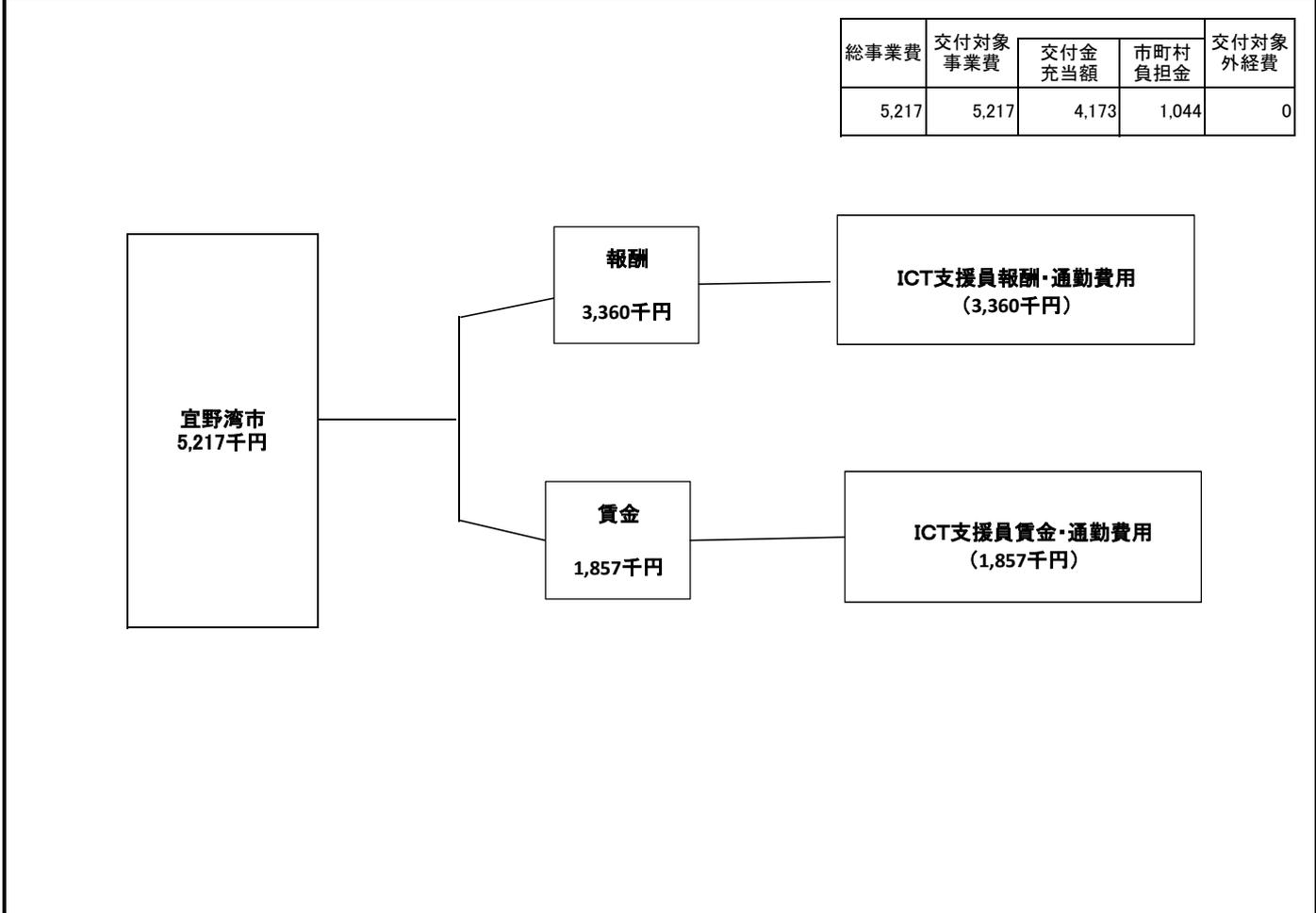
市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	学校ICT活用指導支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	教育委員会指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24年度～平成33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の情報活用能力向上を図るため、ICTサポート支援員を派遣し、教育用PC、電子黒板及びプロジェクターなどを活用した情報教育授業を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,369	5,362	5,354	5,346	
		(b) 予算現額	5,369	5,362	5,354	5,346	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		5,369	5,362	5,354	5,346	
	B. 執行済額		3,569	5,282	5,255	5,217	
	うち交付金充当額		2,500	4,225	4,204	4,173	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		66.5%	98.5%	98.2%	97.6%	
予算の状況の説明		計画どおり事業執行を行ったが、平成28年3月16日以降分を市単独経費としたため、97.6%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・情報夏期講習会 ・情報教育研究会検証授業	目標	(8回)	(8回 12回)	(夏期講習会8回、検証授業12回実施)	(夏期講習会8回、検証授業12回実施)	
		実績	8回	(8回 12回)	(9回 12回)	(12回 13回)	
	ICT活用主任嘱託員1名・補助員1名の配置	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
		実績	2名	2名	2名	2名	
達成状況説明	・情報夏期講習会、検証授業を計画を上回って実施することができた。 ・ICT活用嘱託員・補助員が学校現場への要請に応じて、ICTの苦手な教員への個別研修を行い、授業でのタブレットパソコンの活用促進を図ることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	ICT機器を活用した授業の支援を行ない、児童生徒の学習理解度を深めることや情報活用能力の向上を図る。	目標	()	()	()	(情報活用能力の向上を図る)	()
		実績				(情報活用能力の向上が図られた)	
	【参考指標】 教師用アンケート「授業にICTを活用して指導できる」率	目標	(76.2%)	(小学校90%以上 中学校90%以上)	(小学校90%以上 中学校90%以上)	(小学校90%以上 中学校89%以上)	()
		実績		小学校:90% 中学校:67%	小学校:94% 中学校:71%	小学校:90% 中学校:89%	
	進捗状況説明	・情報夏期講習会を計画を上回る12回実施し、ICT活用嘱託員・補助員を2名配置し、学校現場におけるICT活用支援を進めることができた。 ・本事業で配置されたICT活用嘱託員・補助員による情報夏期講習やICTを活用した授業の補助や迅速なシステムサポートを通して、授業に情報機器を活用して指導できる率が小学校・中学校とも年々向上している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市の教育施策「わかる授業・参加する授業」の実現に向けて、教育機器を積極的に授業で活用することにより、児童生徒の学習意欲の向上を図っている。小学校では、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本操作及び情報モラルを身に付け、情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動の充実を図る。</p> <p>中学校では、生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータ情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実させる。取り組み方法としては、教師の授業支援のみならず、ICT機器を活用した授業づくりの提案を積極的に行う。</p>	<p>ICT機器を活用した学習活動を充実させるため、特に中学校において下記の3点を重視する。</p> <p>①教職員に対し、インタラクティブプロジェクターや書画カメラの授業での活用方法の提案や操作研修を実施する。</p> <p>②デジタル教科書等を活用したICT活用指導力向上に資する体系立てた研修の提供を行う。</p> <p>③生徒がタブレットパソコン等、ICT機器を活用できる能力の向上に資する授業の提案を行う。</p>

今後の取り組み方針

平成28年度は、改善余地の検証で記した3点について、重点的に取り組み、ICT機器を活用した分かりやすい授業の展開を推進する。なお、総務省「教育分野におけるICT利活用推進のための情報通信技術面に関するガイド(手引き書)2013」、文部科学省の「教育情報化ビジョン」の将来構想として「各クラス1台の電子黒板整備」と示しているが、宜野湾市は、その構想に基づき、市内中学校の全ての普通教室や、理科室、技術室などの特別支援教室に電子黒板機能を有したインタラクティブプロジェクター、書画カメラ等、ICT機器を配置し、主要5教科(国語、数学、理科、社会、英語)にデジタル教科書を整備する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	宜野湾市地域防災計画等策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	総務部市民防災室	事業実施(予定)年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	<p>沖縄県は、島しょ県であるとともに、台風等の自然災害を被りやすい地域であることから、住民の生命・財産を守るため、沖縄県で想定されるあらゆる災害に対応できる実効性のある地域防災計画を策定するため現行の地域防災計画の見直しを行う。また、津波・土砂災害ハザードマップに高潮・洪水の危険箇所等を加え総合防災マップを作成し、全世帯へ配布をし周知を図る。更に総合防災マップ(GIS)は市HP上でも公開する。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,310				
		(b) 予算現額	23,015				
		(c) 増減額 (b-a)	5,705				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	23,015				
	B. 執行済額		18,224				
	うち交付金充当額		14,579				
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		79.2%				
予算の状況の説明		事業計画どおりに事業執行した。不用額の4,792千円は、委託料や印刷製本費の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	地域防災計画の策定及び総合防災マップの作成及び全戸配布(約41,000部)また、総合防災マップ(GIS)は市HP上でも公開する。	目標	計画策定、防災マップ作成、配布、防災システム構築	()	()	()	()
		実績	計画策定、防災マップ作成、防災システムについて完了				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の教訓や法改正、沖縄県地域防災計画と整合性の図れた地域防災計画を策定できた。 地震ハザードマップ等を追加した総合防災マップの作成やGISを活用した宜野湾市防災情報システムを構築した。 防災マップの印刷は完了したが、全戸配布は市の単独費等の都合上、平成28年度に事業変更となった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			()	()	()	()	()
	・総合防災マップを市内全世帯(約41,000部)に配布及び市HP上で公開し、危険箇所や避難所の周知を行い、市民の防災意識の高揚を図る。	目標	()	防災意識の高揚を図る	()	()	()
		実績		防災意識の高揚が図られた			
進捗状況説明	<p>東日本大震災の教訓や法改正、沖縄県地域防災計画と整合性の図れた地域防災計画を策定でき、また、津波避難計画や避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備がされ、本市の防災体制の基盤整備ができた。また、地震ハザードマップ等を追加した総合防災マップの作成やGISを活用した宜野湾市防災情報システムを構築し、住民の防災意識の高揚を図れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災マップの印刷完了し、市単費によって、平成28年度に全戸へ配布した。 						

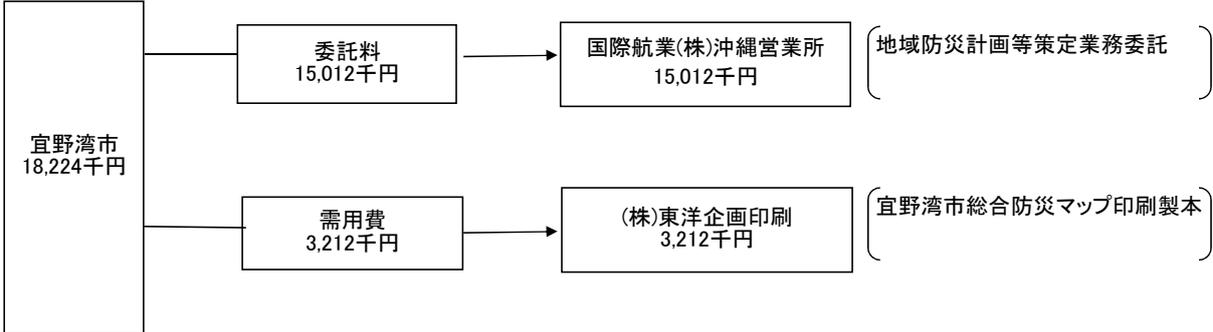
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	総合防災マップを全世帯分作成したが、全戸配布後に市内に転入する世帯への配布が本事業では対象外である。災害対策基本法で全住民に配布することが必須である。	本事業の納品物で、総合防災マップ印刷用データの納品を活用し、新規の市内転入者への総合防災マップを作成する必要がある。

今後の取り組み方針

総合防災マップ印刷用データを活用し、新規の市内転入者用の総合防災マップを作成し、もれなく市内全世帯へ配布を行い、危険箇所等を周知していく。増刷用の予算は市の単独費を確保することとする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
18,224	18,224	14,579	3,645	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は入札執行残により、事業費の20%程度であったため、市場価格を精査する必要があった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	市民防災事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	総務部市民防災室	事業実施(予定)年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	沖縄県は、島しょ県であるとともに、台風等の自然災害を被りやすい地域であるため、平常時から災害に対する備えを万全にする必要がある。本事業では、宜野湾市地域防災計画に基づき食糧備蓄や飲料水の確保や津波一時避難ビル表示板の設置や自主防災組織の育成支援を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
		(a) 当初予算額	15,401				
	(b) 予算現額	10,449					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,952					
	(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	10,449					
	B. 執行済額	10,443					
	うち交付金充当額	8,354					
	次年度繰越額	0					
	執行率 (%) (B/A)	99.9%					
予算の状況の説明	当初、津波一時避難ビル表示板の設置は25カ所予定していたが、22カ所の設置となった。増減額の4,952千円は物品購入費等による入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		27年度	28年度	29年度	30年度		
	・4,000食の備蓄食料を備蓄する。	目標	(4,000食)	()	()	()	
		実績	4,000食				
	・津波一時避難ビルとして指定した建物へ25カ所の表示版を設置する	目標	(25カ所)	()	()	()	
		実績	22カ所				
	・自主防災組織への資機材整備の支援を行う。	目標	(3団体)	()	()	()	
		実績	3団体				
	・海水淡水化装置の整備を行う。	目標	(1機)	()	()	()	
		実績	1機				
達成状況説明	・備蓄食糧として、アルファ化米を4,000食分購入し、いざというときの災害への備えを行った。 ・津波一時避難ビル表示板の設置は、当初25カ所予定していたが、建物所有者との調整の結果、3カ所は同意が得られず22カ所の設置となった。 ・自主防災組織へ資機材整備の補助を行い、自主防災力の向上を図った。 ・海水淡水化装置1機の購入により、災害時における飲料水不足の備えを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
			()	(54%)	()	()	()
	保存食の備蓄 H26度備蓄食糧率34% H27度備蓄食糧率54%	目標	()	(54%)	()	()	()
		実績		54%			
	津波避難ビルの認知度を向上させる。	目標	()	(25カ所)	()	()	()
		実績		22カ所			
	地域の自主防災力の向上を図る。	目標	()	(3団体)	()	()	()
		実績		3団体			
	海水淡水化装置導入完了(1機予定の内1機)	目標	()	(1機)	()	()	()
		実績		1機			
進捗状況説明	・備蓄食糧として、アルファ化米を4,000食分購入した。次年度以降も一定数の保存食を備蓄し、目標備蓄数2万食を目標に備蓄を行い、大規模災害に対する備えを十分に行う。 ・津波一時避難ビル表示板の設置は、当初25カ所予定していたが、建物所有者との調整により22カ所の設置となった。予定建物には、少なくとも1箇所ずつは設置ができ、蓄光素材や反射板を利用することにより、津波避難ビルの認知度向上に繋がった。 ・自主防災組織へ資機材整備の補助を行い、各地域で必要とする資機材を整備することができ、自主防災力の向上が図れた。 ・熊本地震のように水道施設の破損等により飲料水供給不足にも対応できる海水淡水化装置1機の購入により、飲料水不足の備えを行った。						

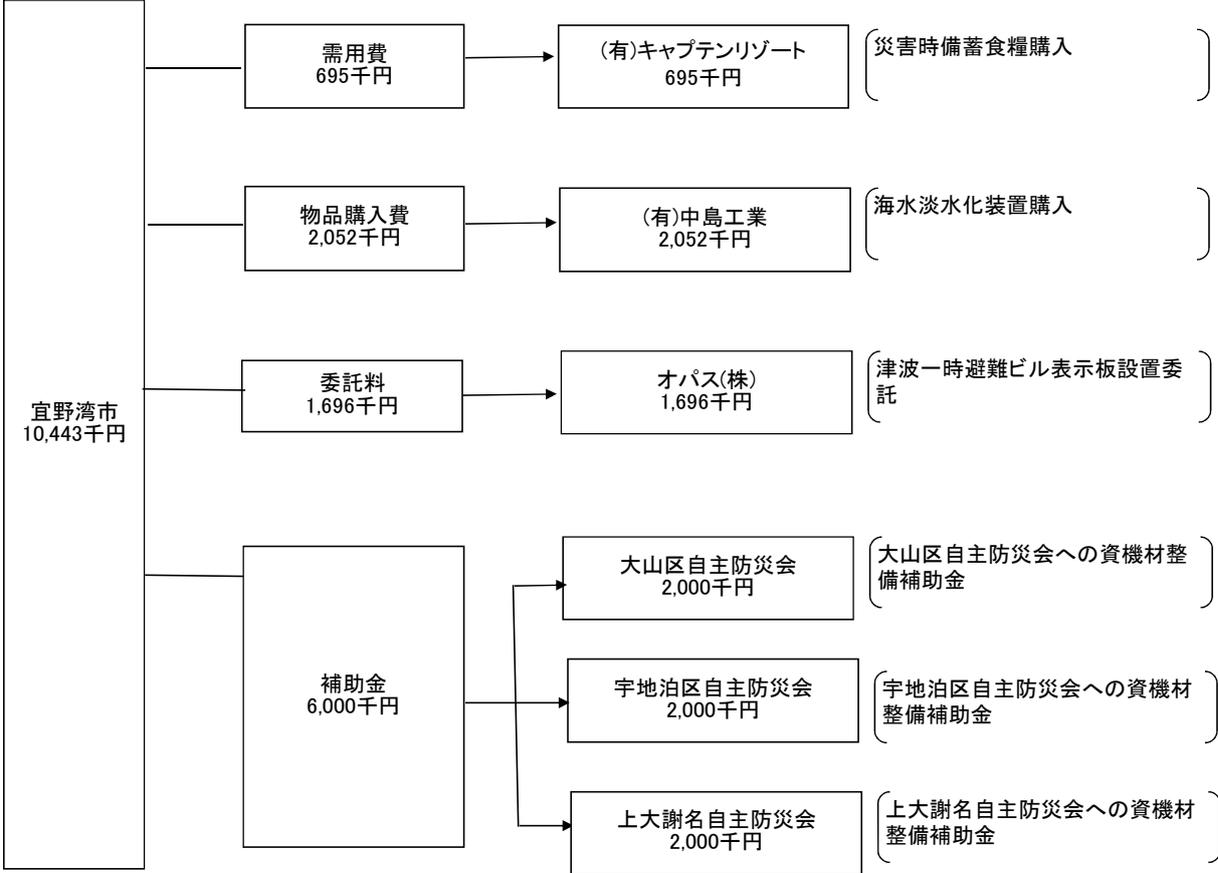
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄食糧としてアルファ化米の購入を行っているが、熊本地震の際には、被災者の様々な食糧の要望に即座に対応できていない状況があり、本市においても課題と考える。 ・熊本地震のように、余震が続いた場合に、自宅が被災していなくても車中泊をしている方もいたため、沖縄県地震被害想定最大の被災者数以上に食糧を備蓄する課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者の様々な要望に対応できるようアルファ化米以外にも様々な備蓄食糧を備蓄するよう努める。 ・熊本地震のような車中泊も視野にいれた備蓄食糧目標数の見直しを検討する。

今後の取り組み方針

・今後沖縄で発生する可能性のある大規模災害や東日本大震災や熊本地震などの大規模災害を教訓に、本市でも大規模災害の備えとして、地域防災計画上の目標数の食糧を備蓄することとする。また、被災者の様々な要望にも応えきれるよう備蓄食糧の種類を増やすこととする。また、引き続き新たな自主防災組織へ資機材整備の補助を行い、自助・共助の必要性を啓発し、地域防災力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,443	10,443	8,354	2,089	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者等は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は入札執行残により、事業費の30%程度であったため、市場価格を精査する必要があった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6 宜野湾市基地返還跡地転用推進基金事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-ア			
	駐留軍用地跡地の有効利用の推進							
担当部署名	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8	
事業内容	本市の面積の約3割を占める広大な米軍基地は、住みよいまちづくりをする上で最大の阻害要因となってきた。土地を住民から強制接収した経緯から土地の約9割以上が民有地となっており、公共用地が極端に少ない状況であり、駐留軍用地の返還後の跡地利用推進を図るため、基地返還跡地転用推進基金を設置し、早急に公共用地を確保する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	160,000	921,000	1,343,046	711,039		
		(b) 予算現額	382,500	3,320,752	2,634,972	711,039		
		(c) 増減額(b-a)	222,500	2,399,752	1,291,926	0		
		(d) 繰越額	—					
	A. 計(b+d)		382,500	3,320,752	2,634,972	711,039		
	B. 執行済額		382,500	3,320,752	2,634,972	711,039		
	うち交付金充当額		306,000	2,656,601	2,107,977	568,831		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100%	100%		
予算の状況の説明		・普天間飛行場の用地取得を推進するため基金を積み立てた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	普天間飛行場の土地を取得する。 目標 (積立実施) (市の取得面積(253,000㎡)に対し、(35,000㎡)を取得する。) (普天間飛行場及び西普天間住宅地区の土地を取得する。) (普天間飛行場の土地を取得する。)		実績 積立実施	普天間飛行場 13,490.38㎡を取得した。	普天間飛行場: 4,156㎡ 西普天間住宅地区: 92,847.86㎡	普天間飛行場: 9,711.04㎡		
達成状況説明	・普天間飛行場については、9,711.04㎡を取得した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	普天間飛行場【特定事業の見通し】(80,000㎡)に対し、(42,700㎡)を取得する。 達成率:53%		目標 () ()	市の取得面積(253,000㎡)に対し、(35,000㎡)を取得する。(達成率27%を目標とする。)	必要な土地についての取得率 普天間飛行場:平成26年度末20%以上 西普天間住宅地区:平成26年度末75%以上	普天間飛行場【特定事業の見通し】(80,000㎡)に対し、(42,700㎡)を取得する。 達成率:53%	()	
	実績		普天間飛行場 13,490.38㎡を取得した。	(普天間飛行場)取得率:22% (西普天間住宅地区)取得率:77.3%	(普天間飛行場)達成率:34%			
進捗状況説明	・普天間飛行場の用地取得については、当初目標で達成率を53%と設定していたが、実績として34%に留まった。その要因として考えられるのは、返還時期が早く2022年度と示されていることから、地権者として現時点で先行取得の動向を伺っているものと考えられる。							

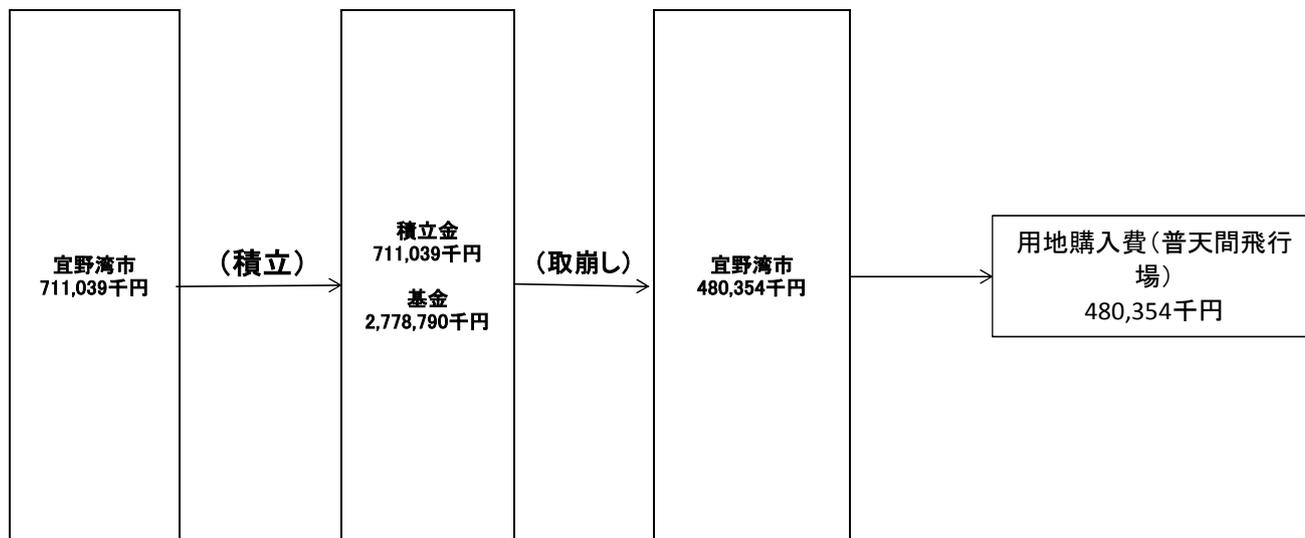
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・普天間飛行場については、返還時期が早く2022年度と示されていることから、返還間近になってから、先行取得に応じる地権者が増加し、手続き等が煩雑になる可能性がある。</p>	<p>・計画的な先行取得に向け、継続して先行取得説明会やチラシ、広報誌などの広報活動を行い、地権者の意識高揚に粘り強く努める。</p>

今後の取り組み方針

普天間飛行場の先行取得は、平成25年度より沖縄県とともに先行取得を行っている。今後も沖縄県と連携して用地取得を進め、又、市の取得面積の目標に向け計画的な先行取得ができるよう説明会や広報誌、チラシ等で周知を図り、地権者に先行取得への理解に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
711,039	711,039	568,831	142,208	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○基金積立事業であり、預入先などの選定は基金運用検討委員会にて適切に行っており、妥当であると考えている。</p> <p>○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
	担当部署名	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の有効利用の推進
					III-8		
事業内容							
普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。また、市民によって構成される「NBミーティング」や若手地権者等によって構成される「若手の会」の活動を支援し、合意形成についての取り組みを行う。							
実施方法							
<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額【単位:千円】							
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
(「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	25,439	16,667	19,551	25,649	
		(b) 予算現額	24,844	16,146	19,108	24,774	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 595	▲ 521	▲ 443	▲ 875	
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		24,844	16,146	19,108	24,774	
	B. 執行済額		24,721	16,023	19,097	24,736	
	うち交付金充当額		19,776	12,818	15,277	19,788	
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.5%	99.2%	99.9%	99.8%	
	予算の状況の説明		委託契約及び旅費の執行残により減額が生じたが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				
活動目標(指標)及び達成状況							
H27活動目標(指標)			達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援、地権者の意向調査	目標	(普天間飛行場跡地利用計画策定)	(地権者・市民意向把握の実施、しくみづくりの取り組み)	(地権者・市民意向把握の実施、しくみづくりの取り組み)	(市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援、地権者の意向調査)		
	実績	普天間飛行場跡地利用計画策定	地権者・市民意向把握の実施、しくみづくりの取り組みを行った	地権者・市民意向把握の実施、しくみづくりの取り組みを行った	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援を行い、平成28年度に実施する地権者の意向調査を検討した。		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 若手地権者等を中心とする「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」では、定例会の活動支援を行い、①県市共同調査で作成したPVに関する意見交換、②「共同利用」をテーマに通年度検討し独自の案を作成、③その案を計5回の字別意見交換会(計107名参加)で発表、④先進地視察や勉強会の開催など、知識の向上を図り、会で集約した考えを活動を通して対外的にPRした。また、地権者へ跡地利用に対する関心向上や合意形成に向けた活動を行った。 市民によるまちづくり検討組織である「ねたてのまちベースミーティング」では、同じく定例会の活動支援を行い、①地域の歴史を再発見し、市民全体がまちづくりを考える機運を高めることを目的とした「まち歩きとまちづくり座談会」の開催、②大規模公園が検討される中でオープンスペースを市民がどのように活用できるか考えることを目的とした「アートインファーム講演会」の開催、③大学生を中心とする組織「がちゆん」と連携し、「世代交流まちづくりゆんたく会」「学生円卓会議」の開催、④活動PRのためのパンフレットの作成などを行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況							
H27成果目標(指標)			基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
返還前から関係地権者の意向把握を継続して行う事で、翌年度以降の跡地利用計画の具体化に繋げる。	目標	()	(普天間飛行場跡地利用計画策定)	(普天間飛行場跡地利用計画策定)	(関係地権者の意向把握の継続)	()	
	実績		平成25年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書作成	平成26年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書作成	平成27年度関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書作成		
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」「ねたてのまちベースミーティング」「懇話会」等を通じて、様々な世代、関係者との意見交換や情報発信を行い、市民・地権者の意向把握や参画する機運を高める取り組みを継続し、跡地利用計画の具体化に向けた関係地権者等の意向醸成を進めているところであり、平成27年度においては、関係地権者等意向醸成・活動推進調査報告書を作成した。 					

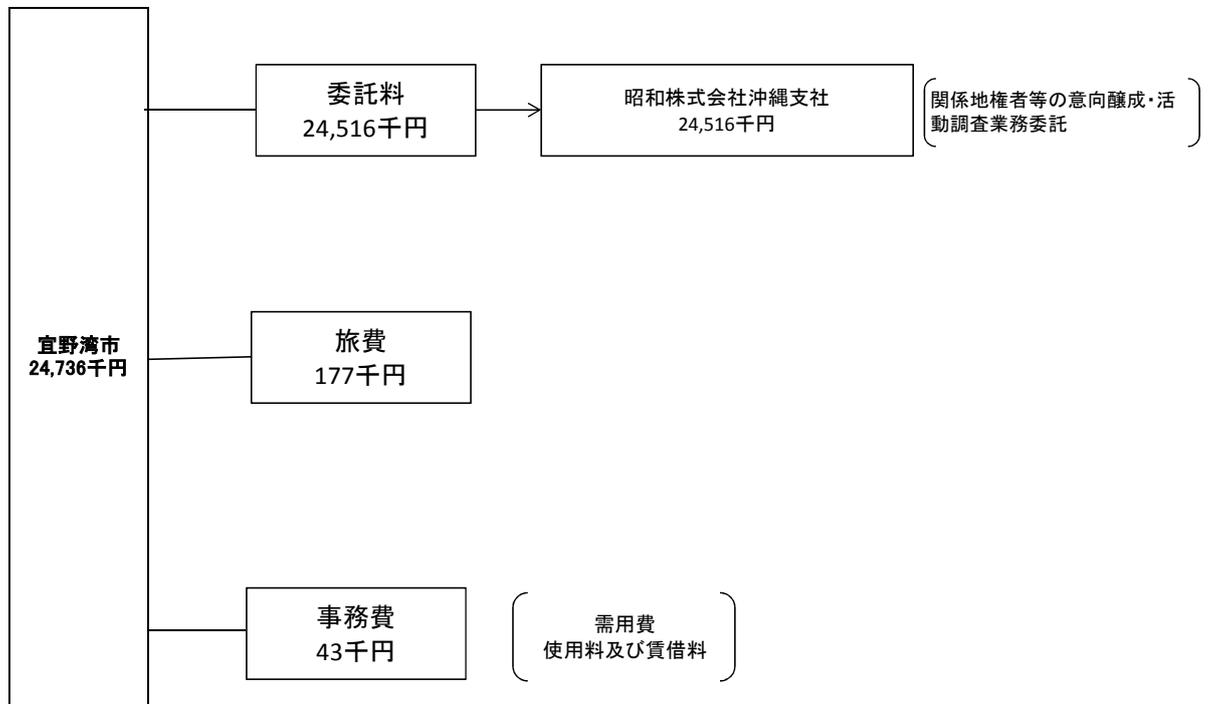
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の返還時期は統合計画の上では示されているが、まだ不確定のため長期的な取り組みが必要になる。 ・「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」「ねたてのまちベースミーティング」ともに、普天間飛行場の返還時期の不確実さや周知活動の弱さから定例会への参加者減少や固定化が進んでいると思われる。この先、会が自立していくための支援や組織強化が必要である。 ・地権者の相続や金融商品としての土地の小口化により、地権者数が約3900名まで増加している中、土地利用等についてどのように考えているのか調査が必要である。 ・平成29年度に跡地利用計画(素案)の策定が予定され、より具体的な跡地利用計画の検討が進められていく中で、今まで以上に多くの地権者・市民等の合意形成を図っていくという、「合意形成のすそ野を広げていく」ための取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い積極的な対外活動とパンフレットを活用した周知活動を行い、また組織体制の見直しも検討できるよう支援する。 ・全地権者に対する郵送でのアンケートを実施する。 ・懇話会に代わる組織の設立準備を検討する。

今後の取り組み方針

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」の自立化と「ねたてのまちベースミーティング」の組織強化に向けた活動支援を行い、市民の合意形成に係る中心的役割を担う組織への発展を目指す。また「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」「ねたてのまちベースミーティング」や有識者で作る「懇話会」の中で、(仮称)ゆめ会議設立準備に向けた取組みについて評価検証を行う。地権者・市民などに対しては情報提供や意見交換を行い、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」「ねたてのまちベースミーティング」の活動や跡地利用に関わる取組みについて周知を図る。さらに、全地権者へのアンケート調査を実施し、跡地利用計画(素案)策定に向けた地権者の意向把握を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
24,736	24,736	19,788	4,948	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-② 普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-ア			
	担当部署名	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	駐留軍用地跡地の有効利用の推進		
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8			
事業内容	宜野湾市と沖縄県が平成19年5月に策定した「行動計画」に基づき、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討と、市民・県民・地権者等に対して情報発信及び意見の聴取を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させる。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,156	19,018	23,240	19,654		
		(b) 予算現額	17,989	18,941	17,692	17,932		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,167	▲ 77	▲ 5,548	▲ 1,722		
		(d) 繰越額	—					
	A. 計(b+d)		17,989	18,941	17,692	17,932		
	B. 執行済額		17,874	18,775	16,816	17,612		
	うち交付金充当額		14,299	15,020	13,453	14,089		
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		99.4%	99.1%	95.0%	98.2%		
予算の状況の説明		委託契約及び旅費の執行残により減額が生じたが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信	目標	(普天間飛行場跡地利用計画策定)	(全体計画の中間取りまとめについて意向把握を行う)	(全体計画の中間取りまとめについての意向把握)	(今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信)		
実績		普天間飛行場跡地利用計画策定	全体計画の中間取りまとめについて意向把握を行った	全体計画の中間取りまとめについての意向把握を行った	今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行った			
達成状況説明	・今後の計画づくりの推進のため、各分野ごとの検討課題に応じ、有識者や地権者等で構成する専門部会を設置し、跡地利用計画内容の具体化に向けた検討を行った。 ・今後の跡地利用計画策定に向けて、市民・地権者意向を踏まえて変更されていく計画に対応していくデータベースとして普天間飛行場の北エリアのVR(バーチャルリアリティ)を作成。また、市民・地権者への意見聴取を進めるため、VRを基に視覚的にイメージしやすい同飛行場北エリアのプロモーションビデオも併せて作成。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
			目標	()	(普天間飛行場跡地利用計画策定)	(普天間飛行場跡地利用計画策定)	(調査検討により跡地利用計画の具体化を行う)	()
	返還前の早い段階での跡地利用計画策定等に係る調査・検討を行う事で翌年度以降の跡地利用計画の具体化に繋げる。		実績		平成25年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	平成26年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	平成27年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	
進捗状況説明	・宜野湾市と沖縄県が平成24年度に策定した「全体計画の中間取りまとめ」について、平成25年度作成した行程計画に基づき、計画内容の具体化を図るとともに市民・県民・地権者等に対して情報発信及び意見の聴取を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させるための取り組みを進めている。 ・成果目標については、計画内容を具体化していくため、専門部会を設置し検討を行った。また市民・地権者への情報発信等跡地利用計画策定への取り組みは進めているところであり、平成27年度においては普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書を作成した。							

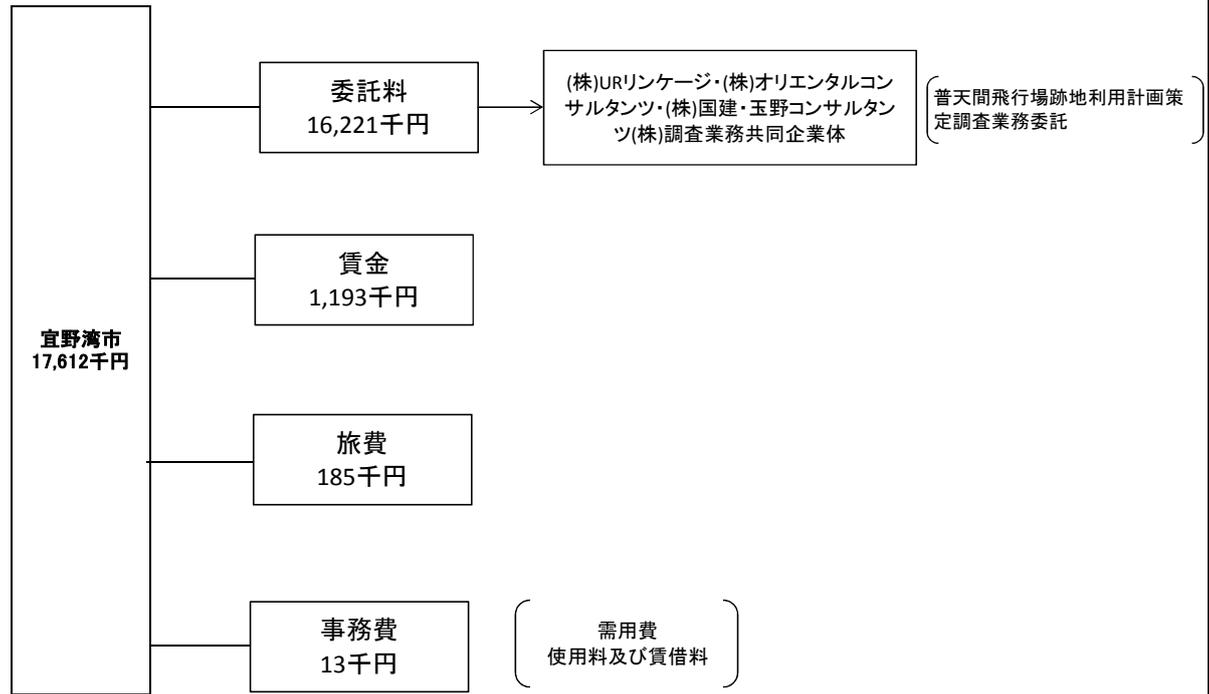
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の返還時期は統合計画の上では示されているが、まだ不確定であることや、基地内の立ち入りが認められず、調査が十分に実施できないことから、跡地利用計画の策定に支障をきたしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基地内の立ち入り調査等を早期に実現するため、関係省庁や米軍と調整、協議をすすめていく。

今後の取り組み方針

・基地内の立ち入り調査等の早期実現に向けて関係省庁や米軍と調整、協議を進めていくとともに、既存調査をさらに精査し、基地内調査に活用していく。
 ・既存調査で作成したプロモーションビデオやパンフレット等を活用し、県内外へ広く情報を発信するとともに、イベント等の様々な取り組みを通じて、跡地利用計画素案策定に向けて、各世代、各分野等の多くの方々から意見聴取、需要調査等を行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,612	17,612	14,089	3,523	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託業者は、プロポーザル方式により適切に選定した。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-③ キャンプ瑞慶覧跡地利用計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-ア			
	駐留軍用地跡地の有効利用の推進							
担当部署名	基地政策部 まち未来課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	III-8	
事業内容	キャンプ瑞慶覧のうち、返還が合意されている宜野湾市部分について、返還後の跡地利用計画を円滑に促進するために跡地利用計画の策定及び地権者の合意形成活動を行い、地権者全体でまちづくりを推進する体制を実現することを目的に、地権者の跡地利用に対する意識高揚を図る。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算状況	(a) 当初予算額	12,108	16,609	42,956	49,491		
		(b) 予算現額	11,685	21,686	42,831	48,857		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 423	5,077	▲ 125	▲ 634		
		(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)		11,685	21,686	42,831	48,857		
	B. 執行済額		11,372	21,651	42,242	47,543		
	うち交付金充当額		9,097	17,320	33,793	38,034		
	次年度繰越額		0	0				
	執行率 (%) (B/A)		97.3%	99.8%	98.6%	97.3%		
予算状況の説明		委託契約の執行残により減額が生じたが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	目標	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	跡地利用実施計画(案)検討		
実績	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用基本計画(案)作成	跡地利用実施計画(案)作成				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に作成した土地利用計画(案)を踏まえ、平成26年4月に沖縄県と宜野湾市において当該地区に「国際医療拠点」の形成を目指すことを確認し、「国際医療拠点」を核とした土地利用計画(修正案)を作成し、同修正案に対してのアンケート調査を実施した。結果(回収率:54%)については、8割を超える賛同を得た。 当該地区は、特殊地形や自然・文化財が豊富なため、跡地利用計画を策定するうえで有識者の意見も踏まえて慎重に検討する必要があるとの指摘があり、検討委員会を開催し、跡地利用計画(案)の作成となった。 平成27年7月24日に庁議を経て跡地利用計画を策定し、実施計画に向けて実施計画(案)の作成を行った。 							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
			目標	() ()	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定完了	跡地利用実施計画(案)作成に向けて課題の把握	() ()
	跡地利用実施計画(案)作成に向けて課題の把握ができる。		実績	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用計画策定	キャンプ瑞慶覧宜野湾市地区跡地利用基本計画(案)作成	課題を把握し、跡地利用実施計画(案)を作成した		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に作成した土地利用計画(案)を踏まえ、平成26年4月に沖縄県と宜野湾市において当該地区に「国際医療拠点」の形成を目指すことを確認し、「国際医療拠点」を核とした土地利用計画(修正案)を作成し、同修正案に対してのアンケート調査を実施した。結果(回収率:54%)については、8割を超える賛同を得た。 当該地区は、特殊地形や自然・文化財が豊富なため、跡地利用計画を策定するうえで有識者の意見も踏まえて慎重に検討する必要があるとの指摘があり、検討委員会を開催し、跡地利用基本計画(案)の作成となった。 平成27年7月24日に庁議を経て跡地利用計画を策定し、実施計画(案)の作成に向けて課題を把握し、実施計画(案)の作成を行った。 							

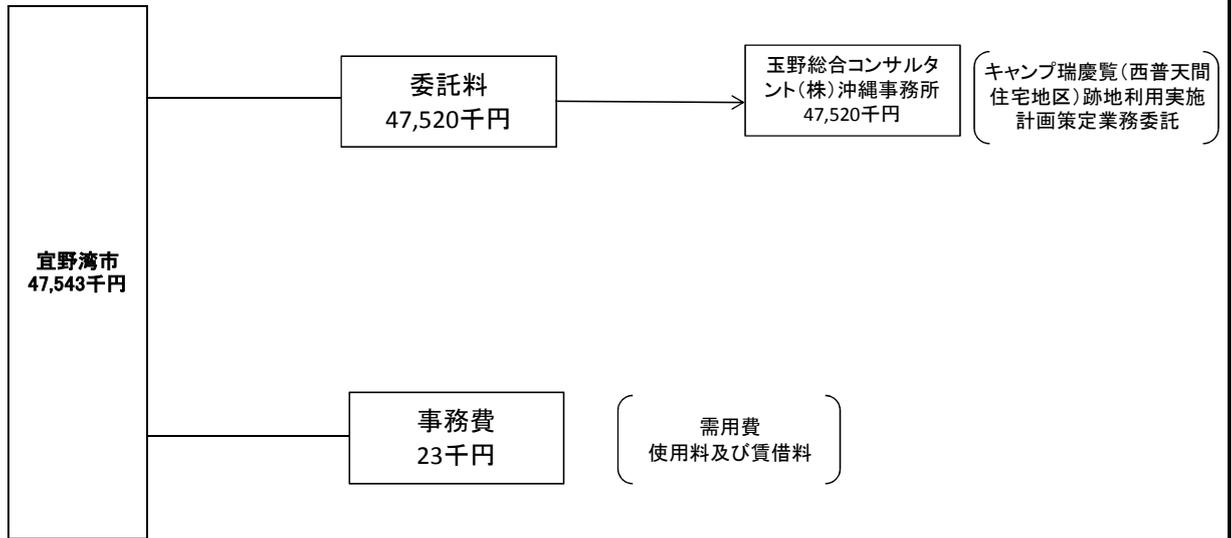
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 当該地区(約51ha)は、今後、琉球大学医学部及び同附属病院、重粒子線治療施設、普天間高校等の用地を各事業者が主体となって地区面積の半分にあたる約24haの土地取得する必要がある。関連業務において、平成27年12月に個別ヒアリングを行った結果、自己利用約41%、土地売却(売却、条件により売却、一部売却)は約44%だった。 策定委員会において付された付帯事項に関する対応を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地権者の個別ヒアリングの結果より必要面積が不足していることから、面積を確保するため跡地利用についての理解を図るとともに、従前地の一律用地買収や一律強減歩を行うなど、地権者の合意形成が必要である。 付帯事項については、各項目ごとに概略検討を行う必要がある。

今後の取り組み方針

跡地利用の先行モデルとなるように跡地利用計画を策定するため課題解決に向けて関係機関と調整するとともに、地権者の合意形成に努める。まちづくり勉強会を実施し、地権者の知識習得やこれからのまちづくりの担い手を育てるための取組みを検討する必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
47,543	47,543	38,034	9,509	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○平成27年度は、後続する事業に遅れが生じないよう跡地利用計画を早期に策定する必要があり、計画策定にあたりアンケート調査や説明会、策定委員会を早期に実施する必要があった為、随意契約が妥当と判断した。</p> <p>○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	市民会館機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ		
	担当部課名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
事業内容	宜野湾市民会館は文化活動の拠点として、市民の発表の場や芸術の鑑賞の場として活用されているが、建設から30年経過し老朽化が進んでいる。しかし、普天間飛行場の移設、跡地利用に目途がつかない状況下では、建替計画の策定が難しいため、現在の設備等を改修し、市民がより利用しやすい施設として機能向上を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
		(a)当初予算額	71,696		129,321	35,945	11,232
	(b)予算現額	63,864		123,900	20,005	10,422	
	(c)増減額(b-a)	▲7,832	0	▲5,421	▲15,940	▲810	
	(d)繰越額	—	37,210				
	A.計(b+d)	63,864	37,210	123,900	20,005	10,422	
	B.執行済額	26,654	37,209	123,898	18,576	10,422	
	うち交付金充当額	21,323	28,677	99,119	14,860	8,337	
	次年度繰越額	37,210	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	41.7%	100.0%	100.0%	93%	100%	
予算の状況の説明		・平成27年度の当初予算減額は、入札による執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	保全計画策定完了	目標	27年度	28年度	29年度	30年度	
		実績	宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討報告書作成	()	()	()	()
達成状況説明	・宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討報告書を作成し、完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	市民会館保全計画を策定することにより、より効果的な施設整備に向けて環境が整う。	目標	()	宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討報告書作成	()	()	()
		実績		宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討報告書完成			
進捗状況説明	・市民会館の現状分析を行うために、音響や設備担当者等からヒヤリングを行い、改修内容等を聞き取った。 ・市民会館内部を調査し、機能強化の提案や修復予定内容等の分析を行った。 ・今回完成した報告書を基にして、今後の市民会館機能強化計画方針を確定していく。						

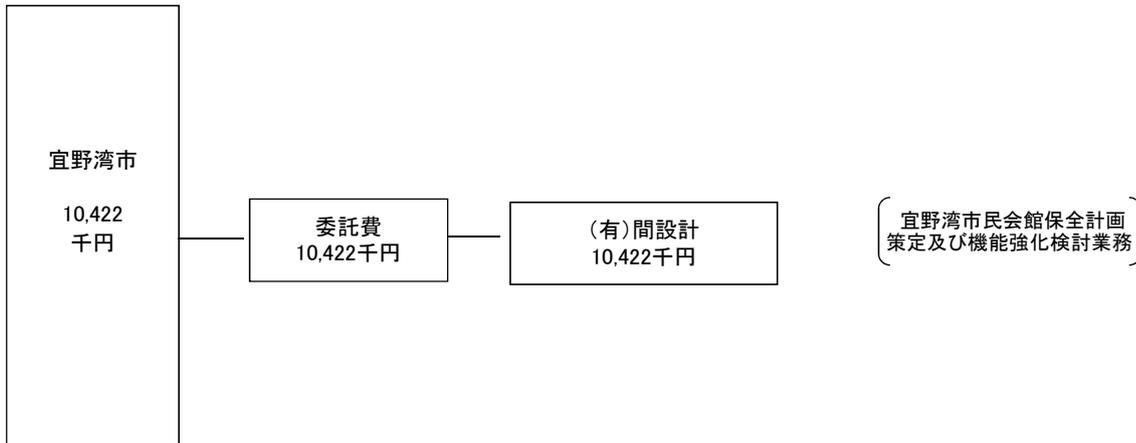
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> この宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討報告書を作成したことにより、短期計画や長期計画の参考となる。 工期により市民会館の閉館が必要となることから、内容等を精査し対応していくことが必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の改修や機能強化の計画については、関係部署と調整しながら利用者の利便性を考慮して立案していく必要がある。

今後の取り組み方針

・平成24年度のトイレ改修、平成25年度の屋上及び外壁改修、平成26年度のエレベーター改修を終え、平成27年度は市民会館の宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討の委託を行った。この宜野湾市民会館保全計画策定及び機能強化検討報告書を活用し、市民会館でこれまで以上のイベント等の開催ができることにより、市民の文化芸術の発信地として活用すべく、今後も機能強化事業を継続していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,422	10,422	8,337	2,085	0



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託業者は、実績等を勘案し選定を行い指名競争入札を実施して決定した。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

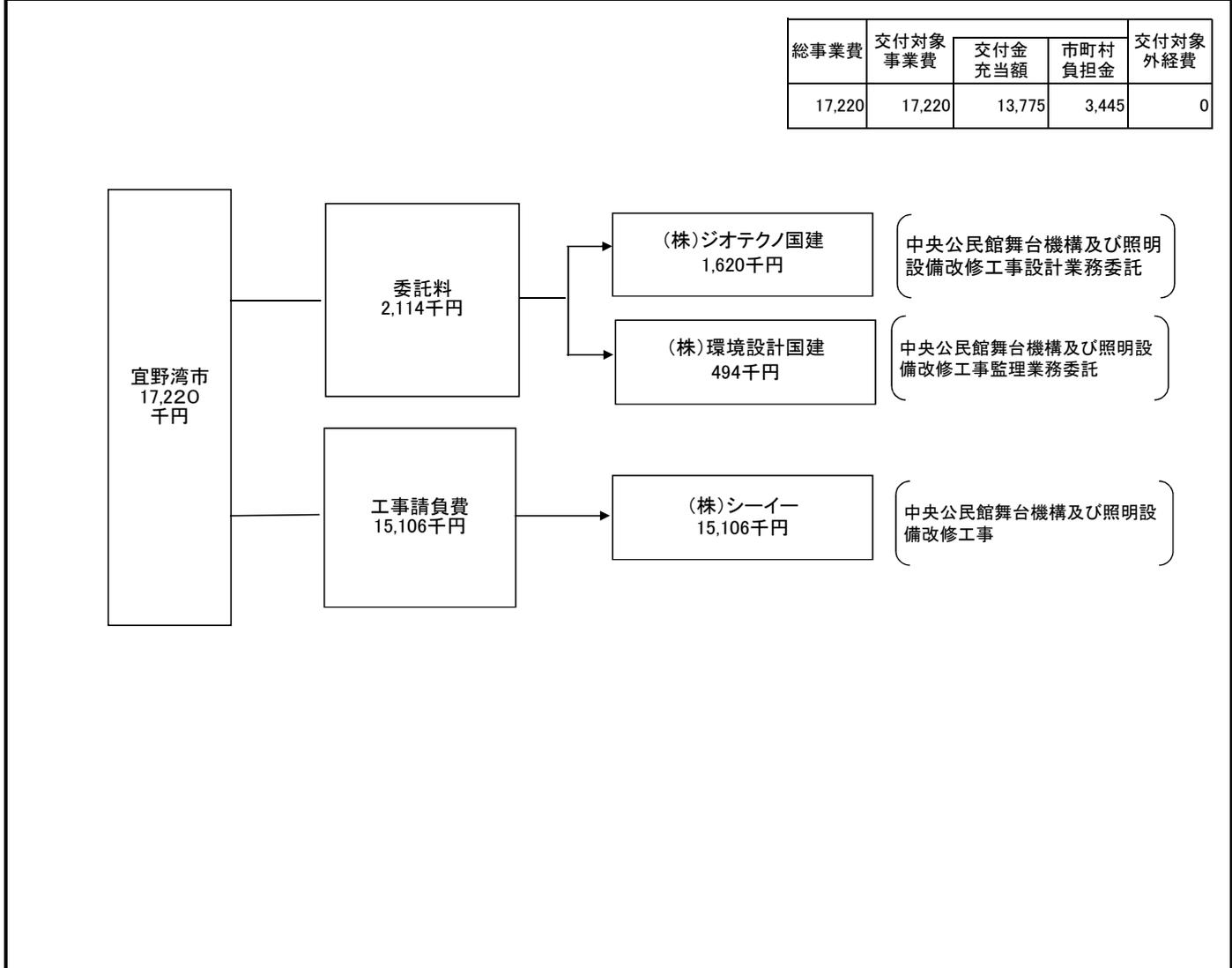
市町村名		宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9	中央公民館機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ			
	担当部課名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	公平な教育機会の享受に向けた環境整備 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	宜野湾市中央公民館は社会教育施設の拠点として、講座、教室、講演会等の場に活用されているが、普天間飛行場の移設、跡地利用に目途がつくまでの間、現在の施設を改修し、より利用しやすい施設として機能向上を図る。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,691				21,066	
		(b) 予算現額	7,691				17,220	
		(c) 増減額 (b-a)	0				▲ 3,846	
		(d) 繰越額	—				0	
		A. 計 (b+d)	7,691				17,220	
	B. 執行済額		4,946				17,220	
	うち交付金充当額		3,956				13,775	
	次年度繰越額		0				0	
	執行率 (%) (B/A)		64%				100%	
予算の状況の説明		入札の結果、入札額(契約額)が予定価格を下回ったため、対象事業費の工事費と委託費の残額を合わせて不用額とし、3,846千円を減額。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事設計、監理の業務委託実施。 中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事の実施。		目標 (中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事設計・設計監理・工事実施)	()	()	()		
		実績 中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事設計・設計監理・工事完了						
達成状況説明		中央公民館舞台機構及び照明改修について、平成27年9月4日設計業務委託完了。10月28日付けで監理業務と工事の契約を行い、平成28年1月22日完了。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
			()	()	()	()	()	
	スクリーンの移動が可能となること等による舞台利用環境の向上を図る。舞台照明の高機能コンパクト化等による舞台演出機能の向上を図る。		目標	()	()	()	()	
		実績		利用環境向上および演出機能の向上が図られた				
進捗状況説明		ホームページや職員用専用サイト(ポータル)で改修工事による機能向上を周知。また、施設使用前打合せでも説明。 ※平成28年4月5日から5月10日まで、中央公民館集会場音響関係機器入れ替え作業に伴い、舞台機構及び照明設備改修工事後から現在までのスクリーン使用催事は2件となっている。いずれも市主催事業。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>照明設備については、経年劣化により、使用不可になる懸念があった。また、舞台機構についても機器の耐用年数超えにより、抜本的な改修工事が急がれていた。</p> <p>さらに、近年、講演会等催事でプロジェクターによる映像の投影が増加しているなか、中央公民館集会場には専用スクリーンがないため、映像を壁に投影しており、その際、舞台上に演台やテーブル等を置いたままでは影が映し出されてしまう為、舞台上を一旦片付けなければならず、利用者からも改善を希望する声をいただいていた。</p> <p>今回の照明設備や舞台機構改修の実施により、より安全に利用しやすい施設となった。</p>	<p>築32年を迎えている本市中央公民館は、社会教育施設の拠点として、様々な講座や教室、講演会の場として市民に利用されている。しかし、普天間飛行場返還や移設等の絡みもあり建替計画の策定が難しいなか、老朽化した施設を改修し、市民が利用しやすいよう施設整備をしていかなければならない状況下にある。</p> <p>平成24年度の中央公民館整備事業と今回の舞台機構及び照明設備改修工事の実施により、より安全で利用しやすい施設となり、これからも適宜保守点検等行っていくことで良好な状態を保っていただけるため、改善の必要はないものとする。</p>

今後の取り組み方針

機能向上とより安全で利用しやすい施設を周知し、各種講座や教室の開設及び住民の集会その他公共的利用の促進を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○中央公民館舞台機構及び照明設備改修工事及び設計委託事業者については、一般競争入札で選定しており妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○開館32年を迎えている施設であるが、より安全で利用しやすい施設への今回の改修工事は予算規模として適当と考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途が事業目的に即していると考えている。

市町村名	宜野湾市						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10	被覆資材等導入推進補助事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	市民経済部観光農水課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興 III-1-(6)	
事業内容	本市農業振興を図る為、防風対策施設の設置及び被覆資材等導入にかかる経費に対する支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,680				
		(b)予算現額	1,680				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	1,680				
	B.執行済額		1,572				
	うち交付金充当額		1,257				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		93.6%				
予算の状況の説明		概ね事業計画通りに予算執行がなされた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	申請件数の増加	目標	(9件)	()	()	()	
		実績	19件				
達成状況説明	被覆資材等導入推進補助事業について、市広報誌への掲載・各生産組織等への説明会実施。当初目標を大きく上回る結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			目標	(8,000㎡)	()	()	()
	被覆資材等導入面積の増加を図る。		実績	37,629㎡			
	進捗状況説明	生産部会への周知、広報誌への掲載など実施に努めた結果、活動目標9件成果目標8,000㎡に対し、実績は19件37,629㎡となる。					

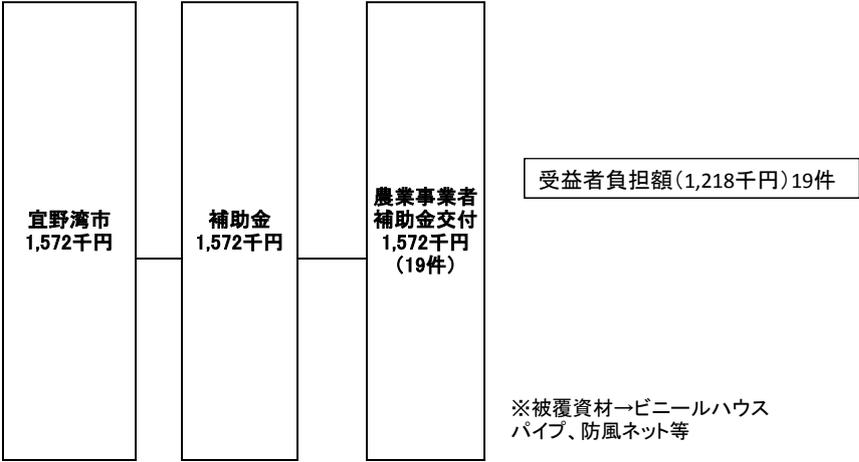
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	個々の生産農家への被覆資材等導入推進補助事業の周知が必要と思われる。	被覆資材等導入推進補助事業内容を各生産農家へ周知する為、農業協同組合と連携し対応する必要がある。

今後の取り組み方針

農業協同組合と連携し、被覆資材等導入推進補助事業の周知と実態に則した被覆資材項目の検討を行いたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,790	1,572	1,257	315	1,218



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は現に農業に従事しており選定については妥当である。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○補助要綱に基づき補助額を決定しているため、受益者との負担関係は妥当であると考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11	新設学校給食センター用地購入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-ア	
担当部署名	教育委員会指導部学校給食センター	事業実施(予定)年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	米軍基地から発生する諸問題及び戦後処理問題の解決 III-3-1		
事業内容	普天間第二学校給食センター及び真志喜学校給食センターは築30数年経過しており、老朽化が進み衛生管理、安全面に支障をきたす恐れがあるため、両センターの建替え方針に基づき、新設学校給食センター用地購入を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	(a) 当初予算額	527,911					
	(b) 予算現額	469,935					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 57,976					
	(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	469,935					
	B. 執行済額	447,349					
	うち交付金充当額	357,878					
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)	95.2%					
予算の状況の説明	当該交付金を活用した用地購入事業は、執行することができた。入札により造成工事費が減額となったこと等、公有財産購入費が減となり不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	新設学校給食センター用地購入を行う	目標	(新設学校給食センター用地購入)	()	()	()	
		実績	新設学校給食センター用地購入				
達成状況説明	宜野湾市土地開発公社において造成・整備していた新設学校給食センター建設用地を購入し、新設学校給食センター建設用地を確保することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	用地購入を行うことで、給食センターの整備に向けて環境が整う。 用地取得面積: 5,729.14㎡	目標	()	(5,729.14㎡)	()	()	()
		実績		5,729.14㎡			
	進捗状況説明	新設学校給食センター建設用地を確保できたことにより、平成29年4月開設を目指した新設学校給食センター建設事業を開始することができた。					

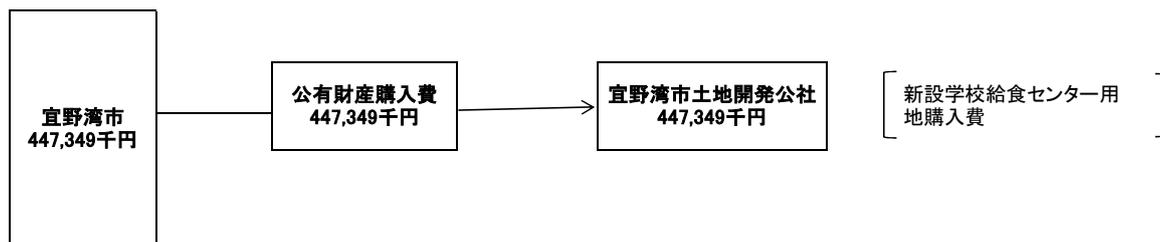
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新設学校給食センター予定用地の購入及び補償における地権者への交渉及び土地の造成等における事業実施を行う上で調整に時間を要する。	土地開発公社にて先行取得・造成等を実施してもらうことで、その後の建設事業等をスムーズに行うことができる。

今後の取り組み方針

平成29年4月開設に向けて、新設学校給食センター建設事業を推進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
447,349	447,349	357,878	89,471	



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○平成25年4月30日付、宜野湾市土地開発公社と業務委託契約が締結され、支出先の選定方法としては妥当であった。 ○建設面積2,767㎡で予算規模、事業内容は適正であった。 ○費目、用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	